

ITU-R WP5D
第6回会合報告書（案）

第1.1版

平成22年2月8日

日 本 代 表 団

ITU-R WP5D 第6回（ドイツ、ドレスデン）会合報告書 目次

1. はじめに	1
2. 会議構成	2
3. 主要結果	2
3. 1 全体の主要結果	2
3. 2 各WG等の主要結果	3
(1)WG GENERALASPECTS (2)WG TECHNOLOGY ASPECTS	
(3)WG SPECTRUMASPECTS (4)WG DEVELOPING ASPECTS	
(5)AH WORKPLAN (6)AH VOCABULARY	
4. 所感及び今後の課題	5
5. 各WG等における主要論議	6
5. 1 WG GENERAL ASPECTS	6
5. 2 WG TECHNOLOGY ASPECTS	7
5. 2. 1 SWG M.1457	10
5. 2. 2 SWG M.1580 & M.1581	10
5. 2. 3 SWG RADIO ASPECTS	11
5. 2. 4 SWG EVAL	12
5. 2. 5 SWG COORDINATION	13
5. 3 WG SPECTRUM ASPECTS	15
5. 3. 1 SWG SHARING STUDIES	18
5. 3. 1. 1 DG SHARING UHF PARAMETER	21
5. 3. 1. 2 DG IMT PFD	23
5. 3. 2 SWG FREQUENCY ARRANGEMENTS	25
5. 3. 2. 1 DG IMT.700	28
5. 4 WG DEVELOPING ASPECTS	29
5. 5 AH WORKPLAN	30
5. 6 AH VOCABULARY	33
6. Region 3 非公式会合	34
7. 今後の予定等	36
7. 1 WP5D 及び関連会合の今後の開催予定	36
7. 2 次会合に向けての日本のアクション事項	36
7. 2. 1 WG GENERALASPECTS 関係	36
7. 2. 2 WG TECHNOLOGY ASPECTS 関係	36
7. 2. 3 WG SPECTRUM ASPECTS 関係	36
付属資料1 参加国・機関と寄与文書数	38
付属資料2 ITU-R WP5D 第5回会合日本代表団名簿	42
付属資料3 日本寄書等の審議結果	43
5D/544（日本寄書）、5D/545（日本寄書）、5D/546（日本寄書）、	

5D/547（日本寄書）、5D/548（日本・韓国共同寄書）、5D/559（日本寄書）

5D/577（日本寄書）、5D/561（日本・韓国共同寄書）、5D/565（日本寄書）

付属資料4	入力文書一覧	47
付属資料5	出力文書一覧	54
付属資料6	各WGの当面のスケジュール(1/2)	57

1. はじめに

IMT (IMT-2000 と IMT-Advanced を集散的に称するルートネーム) の地上系コンポーネントの更なる開発を目指す "Future development of the terrestrial component of IMT" を所掌とする ITU-R SG5 (Study Group 5) WP5D (Working Party 5D) の第6回会合が、2009年10月14日～10月21日にドイツのドレスデンにおいて開催されたので、その結果について報告する。

前回の WP5D 第5回会合 (2009年6月10日～6月17日、スイスのジュネーブにて開催) では、複信方式用の追加を伴う IMT-2000 無線インタフェースの詳細勧告の第9版 (M.1457-9) に向けた改訂草案の承認、IMT-Advanced 無線インタフェース候補技術に関する initial submission 及び自己評価に関する共通認識、IMT-Advanced 無線インタフェースの検討プロセスとその所掌、IMT-Advanced 無線インタフェース技術評価のガイドラインに関するレポート (M.2135) のチャンネルモデルに関する記載の修正、IMT の周波数配置に関する勧告 (M.1036-3) の改訂、3.4-3.6GHz 帯の IMT に対する PFD 制限値の算出法に関する検討等が行われた。

今回の WP5D 第6回会合では、IMT-Advanced 候補技術提案の受け取りとその Acknowledgement に関する審議、更に、その結果と今後のスケジュールを包含した提案者と各外部評価団体へのリエゾンレター文書の作成、IMT-2000 無線インタフェースの詳細勧告の第10版 (M.1457-10) に向けた改訂草案の作業計画の確認、IMT-Advanced 無線インタフェース技術評価のガイドラインに関するレポート (M.2135) のチャンネルモデルに関する修正の承認、IMT の周波数配置に関する勧告 (M.1036-3) の改訂に関する作業文書の更新、SG4 が作成した 3.4-3.6GHz 帯の IMT に対する PFD 制限値の算出法 [IMT-PFD] への対応、3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用のための干渉軽減技術に関する新勧告草案 [IMT-Mitigation] の作業計画の作成、IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案 [ANT ISO] に関する検討等が重点として議論された。

なお、今回会合の第2日目 (2009年10月15日) に、2つの IMT-Advanced 候補技術提案 (IEEE Technology と 3GPP Technology) の代表者及び外部評価団体 (12 団体) の代表者をプレゼンターとしたワークショップが開催された (注: ITU へ登録されている外部評価団体は 14 団体)。

今回の会合には、33ヶ国及び36機関から合計219名の参加 (付属資料1参照) があり、そのうち、日本からは22名が参加した (付属資料2参照)。

入力文書は合計70件であり、そのうち日本から入力した寄書は7件 (日本・中国・韓国の共同寄書2件を含む)、ARIB からの入力寄書が2件であった (付属資料3、4参照)。なお、前回会合からキャリアフォワードされた文章が16件あった。

本会合における出力文書 (TEMP 文書) は合計47件であった (付属資料5参照)。

2. 会議構成

各 WG 等の担当項目と議長を表 1 に示す。

日本は各 WG、SWG、AH および DG に積極的に参加し、会議の進展に貢献した。

表 1 各 WG 等の担当項目と議長

Group	担当項目	議長
WP5D	ITU-R WP5D 全体	S. BLUST (米)
WG DEV (DEVELOPING ASPECTS)	途上国への適用	J. COMARGO (メキシコ)
WG GEN (GENERAL ASPECTS)	IMT 関連の全般的事項	K. J. WEE (韓) 代行 H. Seong(韓)
WG SPEC (SPECTRUM ASPECTS)	スペクトラム関連	A. JAMIESON(ニュージーランド)
SWG – SHARING	周波数共用研究	Mr M. KRAEMER (独)
DG IMT-PFD	WP4A との 3.4-3.6GHz の PFD 制限値 関連の調整	J. Lewis (サムソン)
DG UHF / M.2039	UHF 帯共用検討 IMT パラメータ、レポ ート M.2039 の改定の検討	J. P. Millet (仏)
SWG-FREQUENCY ARRANGEMENTS	周波数アレンジメント勧告 (M.1036-3)	Y. ZHU (中)
DG IMT.700	作業文書[IMT.700]の検討	/ 副議長 A. SANDERS (米)
WG TECH (TECHNOLOGY)	無線伝送技術関連	J.Costa (加)
SWG - M.1457	既存勧告の維持改定管理(無線伝送技術 勧告 (M.1457)、QoS 要求条件(M.1079))	L. SUN (中)
SWG - M.1580&1581	不要輻射	N. P. MAGNANI (伊)
SWG - RADIO ASPECTS	無線関連技術	U. LÖWENSTEIN (独)
SWG - EVAL	無線インタフェース技術評価作業	M. GRANT (米)
SWG COORDINATION	評価グループのコーディネート作業	H. WANG (中)
AH VOCABURARY	用語関連	本多美雄 (日)
AH WORKPLAN	WP5D 全体の作業計画等調整	H. MENNENGA (独)
		H. OHLSEN (スウェーデン)

AH VOCABURARY は、今回は開催されなかった。

3. 主要結果

3. 1 全体の主要結果

- WG-General Aspects が WG-Developing Aspects の担務を引き継ぐことになった。
- SG4 で承認された 3.4-3.6GHz 帯の IMT に対する PFD 制限値の算出法の新勧告案[IMT-PFD]に関して、WP5D 議長から SG4 議長へのノートを発出した。
- 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用のための干渉軽減技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]の作業計画を作成した。
- IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO] の作業文書を作成した。
- IMT-2000 の無線インタフェース勧告 M.1457 の第 10 版 (M.1457-10) 改訂草案を第 8 回会合 (2010 年 6 月) で完成させることを確認した。
- IMT-Advanced の無線インタフェースのフレームワークと特性に関する文書 IMT.RADIO のスコープに暫定合意したが、第 9 回会合での最終化に向けて継続審議とした。

- ・ IMT-Advanced 候補技術に関して 6 件の技術提案があり、その受け取り証明である Acknowledgement を IMT-ADV 文書として作成した。
- ・ IMT-Advanced 候補技術の各提案者、外部評価団体に今回会合での結論及び今後のスケジュールを連絡するリエゾン文書を作成・発出した。
- ・ 今後の評価作業を促進するために、コレスポネンシ・グループを設置することで合意し、コンビナに SWG 議長の本多氏が指名された。
- ・ ITU メンバに対して、IMT-Advanced 候補技術の選定プロセスに関する今回会合での結論を報告するための回章 5/LCCE/2 の Addendum 3 を作成・発出した。
- ・ IMT-Advanced 無線インタフェース技術評価のガイドラインに関するレポート (M.2135) の改訂草案を完成・承認した。
- ・ IMT-Advanced に関するワークショップ (第 3 回目) が開催され、2 つの技術提案の代表者 12 の評価グループの代表がプレゼンテーションを行った。

3. 2 各WG等の主要結果

(1) WG GENERAL ASPECTS

- ・ 今会合での Input 文書は無く、前回会合から Carry forward された ITU-T SG2 からの Liaison 文書 5D/426、5D/427 について審議を行い、回答内容をまとめて一つのリエゾン回答文書を作成した。
- ・ 5D/426 については、「WP5D の Service definition が記載されている ITU-R 勧告 M.1822 と IMT 名称が記載されている ITU-R 決議 56 を参照されたい」旨を記載している。また、5D/427 については、「(3GPPs などの外部団体からの回答が適切であり、WP5D からは特にコメントはない) 旨を記載している。
- ・ 次回会合で継続審議される案件は無いが、次回会合以降、WG Developing Aspects の業務が本 WG に引き継がれることになった。

(2) WG TECHNOLOGY ASPECTS

- ・ IMT-Advanced の無線インタフェースに関しては、IEEE 系 3 件 (IEEE, 日本, TTA)、3GPP 系 3 件 (日本, 3GPP, 中国:但し TDD 部のみ)の計 6 件の入力があり、全て提案に必要な事項を満たされていると認められ、各々 IMT-ADV Document として公開すると共に、各提案者に対して今後のスケジュールを含め連絡する Liaison を発出した。
- ・ 外部評価団体に対して提案入力の報告、今後のスケジュールと共に、6 つの提案を IEEE Technology, 3GPP Technology の 2 つに分類し、IEEE 提案の評価結果は日本(5D/544)及び TTA の提案に適用可能なこと、3GPP 提案の評価結果は日本(5D/545)に、評価結果の TDD 部は中国提案に適用可能であることを連絡する Liaison を発出した。
- ・ ITU メンバに対して IMT-Advanced の無線インタフェース開発の現況を連絡する回章 5/LCCE/2 Addendum 3 を発出し、入力提案の報告及び今後のスケジュールを通知した。
- ・ 会合間にも検討を進めるため、日中韓寄書に基づいて IEEE 系提案、3GPP 系提案、評価団体間の情報共有の 3 つの Topics を討議する Correspondence Group を作成し、コンビナに本多氏が指名された。
- ・ IMT-Advanced の評価方法を記述する Report ITU-R M.2135 に関して、前回会合で IMT-ADV/3 として合意した修正内容を反映させて改訂案を作成・承認し、改訂概要とともに 12 月に開催される SG5 に承認を求め上提した。
- ・ IMT-2000 の詳細無線インタフェース(RSPC)勧告 (Rec. ITU-R M.1457)については、全ての無線インタフェースから改訂の意思表示があり、第 10 版に向けた改訂作業を開始した。改訂原案は第 8 回会合で完成させる予

定である。

- ・ IMT-2000 の不要輻射に関する勧告(Rec. ITU-R M.1580,M.1581)に関しては、今回 OFDMA TDD WMAN に関する入力があったが、作業文書の作成は次回以降とし、第 4 版に向けた勧告改訂スケジュールを検討して Micro Workplan を Update した。
- ・ IMT.RADIO に関しては、日中韓提案の Scope に暫定合意し、第 9 回会合での完成に向け作業文書を作成した。尚 Document Type (Report、IMT-ADV 等)は未決である。
- ・ Cognitive Radio Systems に関しては、WP5A の作業に寄与することに合意し、WP5A に対してスケジュールを確認する Liaison を発出した。又 IMT に特化した検討課題があった場合、文書を作成する場合の目次案も検討した。

(3) WG SPECTRUM ASPECTS

周波数アレンジメント関連

- ・ 勧告 M.1036-3 の改定に向けた作業文書の更新を行い、キャリアフォワードした (TEMP/274)。本作業文書には、日本が提案 (5D/547) した各種の修正が概ね反映され、特に 3.4-3.6GHz 帯の周波数アレンジメントの記述の簡略化の提案は全面的に反映された。
- ・ 勧告 M.1036-3 の改定に関する作業計画に変更はなく、勧告改定案の完成時期は第 10 回会合 (2011 年 2 月) のままとした (TEMP/273)。
- ・ 698-960MHz 帯の周波数アレンジメントの策定に向けての作業文書[IMT.700]は、関連寄与文書に基づいて、作業文書の更新を行い、キャリアフォワードした (TEMP/271)。
- ・ [IMT.700]については、作業文書の目的の明確化を求める意見 (米、英、仏、露、等) が出され、作業の取り扱い (中止、ITU-R レポートとして作成、その他の文書として作成等) 等について、寄与文書を募って、継続議論することにした。

共用検討関連

- ・ SG4 で承認された 3.4-3.6GHz 帯の IMT に対する PFD 制限値の算出法の新勧告案[IMT-PFD] (4/105Rev.1) に対して、一部記載の修正を求めることとし、WP5D 議長から SG4 議長 (WP4A 議長及び SG5 議長にも同報) へのノートを発出することにした (TEMP/255)。
- ・ 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用のための干渉軽減技術に関する新勧告案[IMT-Mitigation]の作成が、スウェーデン、欧州企業から提案され、作業計画を策定した (TEMP/281)。ベースとなる文書は、IMT と FSS の共用検討に関わるレポート M.2109 の干渉軽減技術の章とし、作業計画では第 9 回会合 (2010 年 10 月) を完成目標とした。
- ・ 前回 WP5D 会合にて、JTG5-6 からの要請に基づいて返答した WRC-12 議題 1.17 (第 1 地域及び第 3 地域における 790-862MHz の移動業務及びその他の業務の適切な保護) の検討向けの IMT パラメータ (5-6/93) について、一部修正を伝えるリエゾン文書を発出 (WP5B にも同報) した (TEMP/278Rev.1)。なお、本リエゾン文書の内容を、外部団体にも情報提供した (TEMP/283Rev.1)。
- ・ IMT-2000 インタフェースの共用検討パラメータをまとめたレポート M.2039 について、WRC-07 で新たに特定された IMT 周波数向けのパラメータを盛り込む改定の作業文書を作成し、キャリアフォワードした (TEMP/254)。なお、本作業文書では、JTG5-6 の検討のために取りまとめられた 790-862MHz 帯のパラメータが盛り込む作業が行われたが、日本からの提案 (5D/559) どおり “Generic set of parameters for IMT in the band 790-862 MHz to be used for sharing studies called for under AI 1.17” は、盛り込まないこととした。
- ・ IMT を含む陸上移動業務の基地局併設時等の共用に関する新レポート案[ANT ISO] の作業文書を作成し、キャリアフォワードした (TEMP/279)。本作業の開始を伝えるリエゾン文書を WP5A へ発出した (TEMP/284)。

- ・ 勧告 M.1457 への異なる複信方式の追加に関する共用検討に関連する寄与文書の入力はなく、共用検討の必要性についての結論は出なかった。前回第 5 回 WP5D 会合への関連入力文書のうち 5D/422Rev.1、5D/449、5D/450 を引き続きキャリアフォワードし、入力文書を募って、次回 WP5D 会合で継続議論することにした。
- ・ WP1A に対して、WRC-12 議題 1.22 (ショートレンジデバイス (SRD) による影響の検討) のため、IMT-2000 の保護基準に関する情報提供を行うリエゾン文書を発出 (WP5A にも同報) した (TEMP/280)。
- ・ WP3M からの、P シリーズ勧告の使用法に関するハンドブックを作成のため、それらの勧告の適用例に関する情報提供を求めるリエゾン文書に対して、新勧告案[IMT-PFD]を例示する返答 (WP4A にも同報) を行った (TEMP/282)。

(4) WG DEVELOPING ASPECTS

2 件の入力文書(5D/536、5D/537)に関して審議。議長の Camargo 氏は社内でのアサインメントの変更により WG DEV の議長を辞すとのこと。また WG DEV で取り上げていた業務は WG GEN に引継ぐ。

(5) AH WORKPLAN

- ・ WP5D の全般的ワークプランの最新化を行った。
- ・ 特に、スケジュール自体は現状を維持することが確認され、IMT-Advanced の開発プロセスの各ステップの Completeness を明確化する必要があるとして、完了すべき作業との関係付けが行われた。ステップ 3 は今回会合での候補無線インタフェース技術の Acknowledgment 発行を持って完了すること、今後のステップ 4 以降の評価及びコンセンサス形成プロセスの完了はステップ 7 の IMT.RADIO の完成を持って完了することとした。
- ・ IMT-Advanced の無線インタフェース技術新勧告草案[IMT.RSPEC]の改定プロセスの検討、また、新規提案技術に対する第 2 ラウンド以降に向けた選定プロセスのアップデートの検討は、第 8 回会合から第 10 回会合間で行う必要があるとされた。
- ・ 次の第 7 回 WP5D 会合はイタリアから招聘が行われた。

(6) AH VOCABULARY

- ・ 今回の第 6 回会合では Ad Hoc Vocabulary は開催されなかった。議長とオフラインで話をしたところ今回の第 6 回会合では開催せず、第 7 回以降で開催とのことであった。

4. 所感及び今後の課題

- ・ IMT-Advanced 無線インタフェース候補技術の提案については、ARIB 高度無線通信研究委員会無線インタフェース提案検討会の各構成メンバーの IEEE802.16WG 及び 3 GPP TSG-RAN 関連 WG 会合への寄与と調整活動、IMT-Advanced 開発プロセスを円滑に進めるための日中韓の共同寄書と議長・副議長の提案並びに SWG-Coordination 議長の本多氏の昼夜を惜しまぬ努力により、それほど大きな混乱もなくステップ 3 を無事終了することができた。関係者の寄与と努力に深謝する。
- ・ ステップ 4 以降の道筋についても、今会合で概ね明確になったが、コンセンサス形成を経て無線インタフェースの主要特性を決定するステップ 7 の終了までは、これまで通りの寄与・努力が重要である。とりわけ本多氏をコンビーナーとする IMT-Advanced の評価のためのコレスポネンス・グループの役割とその成果は極めて重要であり、日本からの継続的な寄与は不可欠であろう。
- ・ IMT-Advanced の無線インタフェースのフレームワークと特性に関する文書 (IMT.RADIO) については、日中

韓の共同寄書が功を奏して、IMT-Advanced 開発プロセスの活動の記録を目的にした ADV 文書とすることで合意し作業計画も作成することができたが、この文書が今後戦略的に利用されることなく且つ膨大な文書にならないように、十分留意する必要がある、今後とも日中韓で協調して進める必要がある。

- ・ 第 3 回の IMT-Advanced に関するワークショップで、各評価グループの活動状況を聞いたが、具体的な評価活動を開始しているグループは少なく、今後のコレスポネンシ・グループでの議論並びに IEEE と 3GPP が今後開催する調整会合/ワークショップでの議論に依存するところが大きいと感じた。CJK-B3G WG 会合や他の評価グループを巻き込んだ情報・意見交換を拡大する必要がある。
- ・ スウェーデン、欧州企業からの提案により、3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用のための干渉軽減技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]を作成することで合意したが、本件については、我が国の貢献が大いに期待されていると想定され、今後具体的な検討を開始する必要がある。

5. 各WG等における主要論議

5. 1 WG GENERAL ASPECTS

(1) 議 長 : Dr. K. J. Wee (韓)

(今会合は Dr. Wee が欠席のため、Dr. H. Seong が代行。Dr. Seong も最終日に不在だったため、WP5D の Plenary 会合での報告は小西が代行。)

(2) 主要メンバー : 坂中、佐藤(孝)、佐藤(一)、小西、他、日本代表団全員、中国、韓国、米国、英国、カナダ、ドイツ、イタリア、フランス、NSN、Alcatel-Lucent、Qualcomm、ZTE 他、全 100 名程度

(3) 入 力 文 書 : 前回会合から Carry forward された ITU-T からのリエゾン文書 5D/426 (ITU-T SG2), 5D/427 (ITU-T SG2), 5D/434 (ITU-T SG15)

(4) 出 力 文 書 : 5D/Temp/245 (WG General Aspects 会合報告)、5D/Temp/244 (ITU-T SG2 へのリエゾン・バック文書)

(5) 審 議 概 要 :

(5-1) 経緯と所掌

本 WG は、“Future Services and Market Aspects” を所掌としていた WG SERVICE ASPECTS の後継 WG として、WP5D 第 3 回会合で新設された WG である。本 WG の所掌は、WG SERVICE ASPECTS の検討対象のほか、Question ITU-R 229-2/5 (IMT 地上コンポーネントの将来の開発) の内容の中で、他の WG が未検討の内容を含む。

(5-2) 審議概要と主要結果

- ・ 今会合は入力文書が無かったため、前回の会合から Carry forward された ITU-T SG2 からの 3 件のリエゾン文書が審議対象であった。このうち、5D/434 は前回の会合で確認されたとおり、すでに WG TECHNOLOGY ASPECTS でリエゾン回答文書を作成済であるため、今会合での審議対象が意図することが確認された。なお、5D/426 は新たなサービスの定義の紹介であり、また、5D/427 は ITU-T 勧告案「Requirements for land mobile alerting broadcast capabilities for civic purposes」へのコメント要請である。
- ・ 5D/426 については、議長より“WP5D の Service definition は ITU-R 勧告 M.1822 に記載されていること、また、ITU-R 決議 56 に IMT の定義が記載されているので、これらの情報もまとめてリエゾン回答文書とする”ことが提案され、了承された。
- ・ また、5D/427 については、Alcatel-Lucent より「本文書に記載されているとおり、外部の専門家の標準団体 (例 : 3GPPs) があるので、リエゾン回答文書では“本情報を共有していただき感謝している。ただ、回答は外部の標準団体の方が適している。WP5D からは特にコメントはない”と記載してはどうか」との

提案があり、Qualcomm も Alcatel-Lucent の案を指示するコメントを出した。

- ・ 上記の二点をまとめて、リエゾン回答文書（5D/Temp/244）を作成し、ITU-T SG2 に送付されることとなった。

(6) 今後の課題：

今回は入力文書も次回会合に Carry forward された文書もないため、現時点では特に検討対象となる課題は無い。
なお、次回会合以降、WG Developing Aspects の業務が本 WG に引き継がれることになったが、現時点で WG Developing Aspects で次回会合に Carry forward された文書は無い。

5. 2 WG TECHNOLOGY ASPECTS

(1) 議長：Lixin Sun（中国）

(2) 主要メンバー：坂中、佐藤(孝)、橋本、鬼頭、広池、木幡、白石、新、田中、野本、菅田、小西、畑川、本多、林、佐藤(一)、北、山口、小林、小松、吉井、石川、中国、韓国、米国、英国、カナダ、独、イタリア、フランス、ロシア、イスラエル、インド、DoCoMo、IEEE、WiMAX Forum、Intel、Qualcomm、Ericsson 他全 160 名程度

(3) 入力文書

(3-1) RSPC 勧告 M.1457 Update

5D/529 (IEEE) , 5D/543 (AT&T, Alcatel Lucent, Datang, Fujitsu, Huawei, DoCoMo, NTT, Nokia, NSN, OKI, Samsung, Telecom Italia, Ericsson), 5D/590 (BR)

(3-2) 不要輻射勧告 M.1580/M.1581

5D/556 (WiMAX Forum)

(3-3) Radio Aspects 関連

5D/546 (日), 5D/574,575 (仏), 5D/577 (日中韓), 5D/578 (Huawei, ZTE)

(3-4) EVAL 関連

5D/570 (Ericsson, NSN), 5D/576,579 (CMCC, Datang, Huawei)

(3-5) Coordination 関連

5D/542 (IEEE), 5D/544,545 (日), 5D/558 (Alcatel Lucent, Alvarion, BT, Cisco, Clearwire, ETRI, Fujitsu, Hitachi, ITRI, Intel, Inter Digital, JRC, KDDI, KT, LGE, Mitsubishi, Motorola, NEC, Nokia, NSN, Oki, Panasonic, SKT, Samsung, Sharp, Sprint Nextel, THALES, Tata, Toshiba, WiMAX Forum), 5D/560,566 (BR/TTA),
5D/561,565 (BR/ARIB), 5D/563 (韓国), 5D/564 (AT&T, Alcatel Lucent, BT, CMCC, China Telecom, China Unicom, Datang, ETRI, Fujitsu, Huawei, JRC, KDDI, KT, LGE, LGT, Mitsubishi, Motorola, NEC, DoCoMo, NTT, Nokia, NSN, OKI, Panasonic, Qualcomm, SKT, SBM, Samsung, Telecom Italia, Ericsson, Toshiba, ZTE), 5D/567,568 (ATIS), 5D/569 (BR/TTT), 5D/580 (中), 5D/581(BR/CCSA), 5D/588 (ETSI)

(3-6) その他

5D/548 (日中韓 : IMT-Advanced 開発 process 関連), 5D/586,587 (Chairs : 第 6 回会合の進め方 関連)

(4) 出力文書： 5D/TEMP/241 (SWG-EVAL 内での提案の認識),
5D/TEMP/242v2 (Rep. ITU-R M.2135 改訂案),

5D/TEMP/243r1v2 (Rep. ITU-R M.2135 改訂概要),
 5D/TEMP/246 (M.1580/M.1581 改訂の Micro Workplan),
 5D/TEMP/247 (SWG-M.1580/81 Meeting Report),
 5D/TEMP/248 (SWG-M.1457 Meeting Report),
 5D/TEMP/249r1 (SWG-Radio Aspects Meeting Report),
 5D/TEMP/250 (WP5A に対する CRS に関する Liaison),
 5D/TEMP/251 (IMT.RADIO の Working Document),
 5D/TEMP/256 (IMT-ADV/4 Acknowledgement of IEEE Proposal),
 5D/TEMP/257 (IMT-ADV/5 Acknowledgement of Japan Proposal/802.16),
 5D/TEMP/258 (IMT-ADV/6 Acknowledgement of Japan Proposal/LTE-Advanced),
 5D/TEMP/259r2 (IMT-ADV/7 Acknowledgement of TTA Proposal),
 5D/TEMP/260r1 (IMT-ADV/8 Acknowledgement of 3GPP Proposal),
 5D/TEMP/261r2 (IMT-ADV/9 Acknowledgement of China Proposal),
 5D/TEMP/262r2v2 (IEEE に対する提案受領に関する Liaison),
 5D/TEMP/263r2 (日本に対する提案受領に関する Liaison : 802.16),
 5D/TEMP/264r2 (日本に対する提案受領に関する Liaison : LTE-Advanced),
 5D/TEMP/265r2 (TTA に対する提案受領に関する Liaison),
 5D/TEMP/266r2 (3GPP と OP に対する提案受領に関する Liaison),
 5D/TEMP/267r2 (中国に対する提案受領に関する Liaison),
 5D/TEMP/268r1v2 (外部評価団体に対する Liaison),
 5D/TEMP/269r1 (Circular Letter 5/LCCE/2 Addendum 3),
 5D/TEMP/270r2v2 (Correspondence Group の ToR),
 5D/TEMP/272r2 (SWG-EVAL Meeting Report),
 5D/TEMP/286 (SWG-Coordination Meeting Report)

(5) 審議概要 :

(5-1) 所掌と経緯

本 WG は、IMT-2000 の無線インタフェースに関する技術仕様の改訂、IMT-Advanced の無線技術の検討を所掌としている。

本会合の検討課題は、RSPC 勧告 M.1457 の改訂原案完成、不要輻射勧告 M.1580/M.1581 改訂検討、及び IMT-Advanced の無線インタフェースの選定作業、IMT-Advanced 評価に関する Report M.2135 の改訂案作成及び IMT.RADIO, CRS に関する検討準備であった。

(5-2) 体制

下記の 5 つの SWG という体制で審議を行った。

Group	Chairman	Topic
SWG M.1457	Mr. Nicola Pio Magnani (伊)	RSPC勧告M.1457の第10版に向けた改訂原案検討
SWG M.1580/81	Mr. Uwe Lowenstein (独)	不要輻射勧告M.1580/81の第4版に向けた改訂原案検討
SWG Radio Aspects	Mr. Marc Grant (米)	IMT.RADIO及びCognitive Radio Systemsに関する検討
SWG EVAL	Mr. Hu Wang (中)	ITU-R Report M.2135の改訂及びIMT-Advanced無線インタフェース提案の評価
SWG Coordination	Mr. Yoshio Honda (日)	IMT-Advanced無線インタフェース提案入力の受領対応

(5-3) 審議概要と主要結果

- 1) Coordination 関連 : IMT-Advanced の無線インタフェースに関しては、IEEE (5D/542), 日本(5D/544,545)、TTA (5D/560) , 3GPP(5D/ 564,565,566,567,569,581), 中国(5D/580)の計 6 件の提案が入力され、全て提案に必要な事項を満たしていると認識し受領した。これらの提案は IEEE 系 (IEEE, 日本, TTA)、3GPP 系 (日本, 3GPP, 中国:但し TDD 部のみ)の 2 つに区分され、外部評価を実施することで合意した。

入力された提案に関しては、各々IMT-ADV Document (IMT-ADV/4~9)として ITU Web 上で公開すると共に、各提案者に対して今後のスケジュールを含め連絡する Liaison (TEMP/262r2v2~267r2)を発出した。

外部評価団体に対しては今回合会での結論を連絡する Liaison (TEMP/268r1v2)を発出した。外部評価団体の提案入力の評価に於いて、IEEE 系の 3 件では IEEE 提案を評価すれば、日本、TTA の提案にも同一の評価結果が適用できること、3GPP 系においては 3GPP 提案を評価すれば日本提案及び、3GPP 系 TDD 部の評価は中国提案にも適用可能なことが記されている。

ITU メンバに対しては今回合会での結論を含め、IMT-Advanced の無線インタフェース開発の現況を連絡する回章 5/LCCE/2 Addendum 3 (TEMP/269r1)を発出し、入力提案の概要及び今後のスケジュールを通知した。

第 8 回合会までに提案評価を完結させるため、合会間における検討推進を目的として、日中韓寄書に基づいて電子的討議(Correspondence Group : CG)を実施することを承認した。本 CG は IEEE 系提案、3GPP 系提案、評価団体間の情報共有の 3 つの Topics に分れ、提案元代表者、評価団体の代表者が討議を行うものである。尚、ITU の TIES アカウントを所持していない代表者には本 CG 向けに期限限定で特別なアカウントが与えられることが連絡された。
- 2) Evaluation 関連 : IMT-Advanced の評価方法を記述する Report ITU-R M.2135 に関して、前回合会 IMT-ADV/3 として合意した修正内容を反映させて改訂案(TEMP/242v2)を作成・承認し、改訂概要(TEMP/243r1v2)とともに 12 月に開催される SG5 に承認を求め上提した。
- 3) RSPC 勧告 M.1457 Update: 勧告 M.1457 の第 10 版に向けた改訂については、5D/543 により 3GPP メンバから 5.1 章(CDMA DS)及び 5.3 章 (CDMA TDD)、前回合会寄書の 5D/439 により BR 経由 TIA TR45.5 から 5.2 章(CDMA MC)、同 5D/428 により ATIS から 5.4 章(TDMA SC)、5D/529 により IEEE より 5.6 章(OFDMA TDD WMAN)に対して改訂を行う旨の連絡があった。又口頭で ETSI から 5.5 章(TDMA/FDMA)も同様に改訂意思を示す発言があり、全ての無線インタフェースが第 10 版に向けて改訂作業を行うことが確認された。
- 4) 不要輻射勧告 M.1580/1581: 勧告 M.1580 及び M.1581 に関しては今回 OFDMA TDD WMAN に関する改訂提案(5D/556)があり、第 9 回合会までに第 4 版に向けた改訂作業を行う Micro Workplan を Update した。
- 5) CRS 関連 : CRS に関しては今回日本、フランス、Huawei/ZTE から寄書入力があり、WP5D 内での検討の進め方から討議を実施し、SG5 内で CRS 検討の Leading WP である WP5A との連携が必要であるとの認識から WP5A 内のスケジュールを問い合わせる Liaison を作成・発出した。又 IMT に特化した検討は継続し、必要な場合の Document 目次を討議した。本 Document に関しては必要性・Document Type を含め決定事項は無く、次回合会以降の入力に基づき再度検討することとなった。
- 6) IMT.RADIO 関連 : IMT.RADIO に関しては今回日中韓から、再度文書種別を IMT-ADV、その Scope を IMT-Advanced 無線インタフェース選定活動の記録とする提案(5D/577)の入力があり、議論を行った。その Scope に対しては一部の文言(Framework)について完全に合意が得られなかったが大筋で決定し、Micro Workplan を作成した。又、日中韓の寄書に基づいて Document 構成を議論し、作業文書を TEMP/251 に作成した。
- 7) SG5 に承認を求める文書。

5D/TEMP/242v2 (Rep. ITU-R M.2135 改訂案),

5D/TEMP/243r1v2 (Rep. ITU-R M.2135 改訂概要)

8) Carry forward documents: 今会合では、下記文書を次回会合へ Carry forward することにした。

5D/526 Att. 6 (M.1457 改訂 Roadmap),
5D/556 (WiMAX Forum : M.1580/81 関連),
5D/TEMP/251 (IMT.RADIO 作業文書)

9) Bookshelf に入れた Document.

無し

5. 2. 1 SWG M.1457

(1) 議長 : Nicola Pio Magnani (伊)

(2) 主要メンバー : 吉井、石川、中国、韓国、米国、英国、カナダ、ドイツ、イタリア、DoCoMo、IEEE、WiMAX Forum、Intel、Qualcomm、Ericsson 他全 25 名程度

(3) 入力文書 :

5D/529 (IEEE), 5D/543 (AT&T, Alcatel Lucent, Datang, Fujitsu, Huawei, DoCoMo, NTT, Nokia, NSN, OKI, Samsung, Telecom Italia, Ericsson), 5D/590 (BR), 5D/428,439 (Carried Forward Documents : ATIS, BR/TIA)

(4) 出力文書 : 5D/TEMP/248 (SWG-M.1457 Meeting Report)

(5) 審議概要 :

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は、WG-TECH 管轄既存勧告の改訂と維持、及び TECHNOLOGY に関する他部門との連携、及び Question に対する検討である。既存勧告とは、M.1457 (IMT-2000 詳細無線インタフェース仕様)、M.1079 (QoS 要求条件) であり、今回会合では M.1457 改訂に関する論議が実施された。

(5-2) 審議概要と主要結果

勧告 ITU-R M.1457 の各無線インタフェースに対しては、5D/590 により BR から第 9 版改訂案について各 Stakeholder SDO からの連絡(Reference)を反映させ、SG5 に入力したとの報告があった。

第 10 版に向けた改訂に関しては、5D/543 により 3GPP メンバから 5.1 章(CDMA DS)及び 5.3 章 (CDMA TDD)、5D/529 により IEEE より 5.6 章(OFDMA TDD WMAN)に対して改訂を行う旨の連絡があった。又、前回会合において 5D/439 により BR 経由 TIA TR45.5 から 5.2 章(CDMA MC)、5D/428 により ATIS から 5.4 章(TDMA SC)の改訂意思が既に示されており、その確認が行われた。尚、口頭で ETSI から 5.5 章(TDMA/FDMA)も同様に改訂意思を示す発言があり、全ての無線インタフェースが第 10 版に向けて改訂作業を行うことが確認された。

第 10 版に向けた勧告改訂原案は第 8 回会合で完成させ、来年 11 月の SG5 に承認を求める予定で作業を進める予定である。

(6) 今後の課題 :

次回第 7 回会合に向けて日本及び ARIB/TTC が検討すべき事項は無い。

5. 2. 2 SWG M.1580 & M.1581

(1) 議長 : U. Lowenstein (独)

(2) 主要メンバー : 坂中、林、山口、北、菅田、畑川、中、仏、独、伊、Telecom Italia、Qualcomm、Intel、他各国 (約 20 名)

(3) 入力文書 : 556 (WiMAX Forum)

(4) 出力文書 : 5D/TEMP/247 SWG-M.1580 & M.1581 議長報告

(5) 審議概要:

(5-1) 経緯と所掌

- RA-07 において、IMT-2000 無線インタフェースの不要輻射に関する ITU-R 勧告 M.1580/M.1581 の Annex6(OFDMA TDD WMAN)に対し、当該第6番目の新無線インタフェースと既存無線インタフェース間の共存を確保するため、出力マスク及び隣接チャネル漏洩電力比(ACLR)に関する検討が、RA-07 会合において要請された。WP5D 第三回会合(2008年10月)で終える予定の改訂作業だったが、ACLR と Test tolerance(許容誤差)の取扱いについて SDO(標準化団体)から情報収集し、当該両勧告に含める必要があり、WP5D 第四回会合(2009年2月)まで改訂作業が延期され、そこで両勧告案が完成し、WP5D の承認を得た。そして、当該両勧告案は2009年5月25日開催の SG5 会合において、一部修正を経て承認された。本 SWG の所掌は、両勧告の6つの Annex における一般的な不要輻射特性に関する更新資料の取り込みを含め、適宜 ITU-R 勧告 M.1580/M.1581 を修正することである。今後は第4版へ向けた作業を行う。

(5-2) 審議概要と主要結果

- SWG-M.1580 & M.1581 は、1回、1 Period 開催された。
- 勧告 ITU-R M.1580-4 及び M.1581-4 に向けたワークプランを作成した。具体的な内容は下記の通りである。
 - ◇ WP5D 第6回会合(2009/10)、第7回会合(2010/02): Update draft working document
 - ◇ WP5D 第8回会合(2010/06): Scheduled finalization of revision 4 based on provided input contributions
 - ◇ WP5D 第9回会合(2010/10): Last opportunity to forward rev.4 of both recommendations to ITU-R SG5 meeting
- WiMAX Forum からの入力寄与文書(556)は、OFDMA TDD WMAN の FDD Component のマスクの情報を追加する旨説明され質疑応答を行った上で、第4版へ向けた作業文書に反映される方向で次回会合にキャリアフォワードされた。

(6) 今後の課題:

- 国内無線設備規則との間で不整合が生じることのないように適宜対処する。

5. 2. 3 SWG RADIO ASPECTS

(1) 議長: Marc Grant(米)

(2) 主要メンバー: 佐藤(一)、田中、林、吉井、山口、小西、畑川、フランス、カナダ、韓国、中国、米国、Intel、Ericsson、ZTE、Alcatel Lucent 全35名程度

(3) 入力文書: 5D/546(日本)、5D/574、5D/575(フランス)、577(日中韓)、578(Huawei、ZTE)

(4) 出力文書: 5D/TEMP/249 (SWG-Radio Aspects Meeting Report)

5D/TEMP/250 (WP5A に対するリエゾン)

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は IMT-Advanced の無線インタフェースに関わる検討と、前回の WP5D 第5回会合まで WG-General aspects で取り扱われてきた IMT に特化したコグニティブ無線に関する課題の検討である。

(5-2) 審議概要と主要結果

- SWG-Radio Aspects は、合計3回、3 Period 開催された。
- 審議された内容は IMT.Radio に関するものと、コグニティブ無線システム(CRS)に関するものであった。
- IMT.Radio について、当該文書のスコープを議論し議長報告に記載されたが、次回以降も寄与文書を募り引き続き議論することになった。

・IMT.Radio について IMT-ADV とすべきか、Report とすべきかを議論したが、まずは内容について議論すべきとの意見が大勢であったため、文書の種類については内容が明らかになってから改めて議論することになった。

・IMT.Radio の目次案が日中韓からの共同入力寄与文書 5D/577 の Annex1 に記載されていたが、これに対して結果だけを知りたい読者もいるため、3. Conclusion (Results of consensus building)を追加することになった。但し、3. Conclusion は複数の RIT の優劣を説明するものではないことが確認された。

・IMT.Radio の Workplan について議論し、2010 年 10 月の WP5D 第 9 回会合で最終化することになった。

・CRS については、4 件の入力寄与文書（日本から 1 件、フランスから 2 件、ZTE・Huawei から 1 件）を説明した後、IMT に特化した CRS の課題の検討の進め方について議論した。その結果、SG5 内の CRS のリーディンググループである WP5A に、最終的には WP5D の検討結果を伝えるべきとの結論に至った。

・IMT に特化した CRS の課題を WP5D で検討するにあたって、WP5D として ITU deliverables を作成すべきかどうかを議論した。日本からは、現段階で決定するのは時期尚早であることを主張し、ZTE・Huawei から同様の意見があったため、ITU deliverables の作成については次回会合以降改めて議論することになった。

・CRS について、WP5A の検討と足並みをそろえるために、現在 WP5A で作成中の CRS に関するレポート草案の最終化がいつなのかを問い合わせるリエゾン（5D/TEMP/250）を作成し、発出した。

(6) 今後の課題：

・CRS については、引き続き WP5A におけるレポート作成作業に悪影響が出ることのないように対処していく必要があり、寄与文書の入力を検討する。

5. 2. 4 SWG EVAL

(1) 議長：Hu WANG (中国)

(2) 主要メンバー：坂中、佐藤(孝)、石川、本多、小西、田中、鬼頭 他日本代表团、中村(3GPP)、AT&T、中国、韓国、米国、英国、カナダ、フィンランド、イスラエル、IEEE、Intel、AlcatelLucent、Qualcomm 他 全 80 名程度

(3) 入力文書：5D/548 (China, Japan, Korea), 570(Ericsson, NSN), 576 (CMCC, DaTang, Huawei), 579 (CMCC, DaTang, Huawei), 586 (WP 5D Chairman and Vice-Chairmen), 587 (WP 5D Chairman and Vice-Chairmen)

(4) 出力文書：5D/TEMP/242 r1(レポート M.2135 の ANNEX1 のセクション 1.3.2.1 の改訂草案), 5D/TEMP/243r2 (レポート M.2135 の改訂に関する要旨と背景), 5D/TEMP/272r1 (SWG-Evaluation 議長報告)

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は、IMT-Advanced の無線インタフェースの評価に関する技術的な課題を解決することである。今会合では、レポート M.2135 の改訂、評価グループからの活動の報告、無線インタフェース技術提案に関する技術的な検討などを行った。

(5-2) 審議概要と主要結果

本 SWG 会合は今会合中に 3 回開催され、レポート M.2135 の改訂を完成した。

レポート M.2135 の改訂に関しては、前回会合において承認し IMT-ADV/3 として発行されているチャネルモデルの誤記、欠落修正を M.2135 の改訂として反映する作業を行った。内容的には前回会合で十分に審議されたものであるため、議長より提案された TEMP 文書 2 件に対して、エディトリアルな修正に関する議論を行い、レポートの改訂案を完成した(TEMP242r1,243r2)。

WINNER+評価グループからのキャリブレーションに関する情報及びウェブのアドレスの通知(5D/570)、中国評価グループで使用しているチャンネル推定誤差のモデル(5D/576)、中国評価グループで使用しているリレーのチャンネルモデル(5D/579)については、これら各評価グループからの情報に対して、SWG 議長より謝意が表された。

今回提案された 6 提案がすべてステップ 3 を通過したことが確認されたため、各提案に関して技術的なレビューを行った。具体的には、日本、TTA、中国の各提案者から、それぞれ 3GPP および IEEE の提案と技術的には同一であることの確認を行い、以下の内容を議長報告に掲載した。

- 日本提案(5D/544)及び TTA 提案(5D/560)は IEEE 提案(5D/542)と技術的に同一である
 - 日本提案(5D/545)は 3GPP 提案(5D/564)と技術的に同一である
 - 中国提案(5D/580)は 3GPP 提案(5D/564)の TDD コンポーネントと技術的に同一である
- よって IEEE 提案と 3GPP 提案を評価すれば、技術的に同一な他の提案も評価したことになる

さらに、SWG COORDINATION から依頼された提案者への確認書、評価グループへのリエゾン文書を審議し、議長提案の文書(5D/586)に対して、エディトリアルな修正を行い、SWG COORDINATION へ回答を行った。

(6) 今後の課題：

次回会合においては、外部評価機関からの情報入力、または評価の入力の可能性がある。

5. 2. 5 SWG COORDINATION

(1) 議長：本多（日本）

(2) 主要メンバー：坂中団長、佐藤（孝）、佐藤（一）、石川、鬼頭、野本、山口、小林、吉井、白石、林、田中、北、他日本代表団、中村（ドコモ）、中国、韓国、米国、英国、カナダ、IEEE、WiMAX Forum、Intel、Qualcomm、Ericsson、BT、AT&T 他 全約 100 名程度

(3) 入力文書：5D/548(日本、中国、韓国), 5D/542 (IEEE), 5D/544, 5D/545 (日本), 5D/558(個別メンバー), 5D/560 (BR – TTA), 5D/561 (BR – ARIB), 5D/563(韓国), 5D/564(3GPP 個別メンバー), 5D/565 (BR - ARIB), 5D/566 (BR –TTA) , 5D/567, 5D/568 (ATIS), 5D/569 (BR – TTC), 5D/580 (中国), 5D/581(BR – CCSA), 5D/568, 5D/567 (WP 議長、副議長), 5D/588(ETSI)

(4) 出力文書：5D/TEMP/256 (IMT-Advanced プロセスにおける IEEE 入力の受領確認、IEEE 技術) – IMT-ADV/4,
5D/TEMP/257 (IMT-Advanced プロセスにおける日本入力の受領確認、IEEE 技術) – IMT-ADV/5,
5D/TEMP/258 (IMT-Advanced プロセスにおける日本入力の受領確認、3GPP 技術), - IMT-ADV/6
5D/TEMP/259Rev.2 (IMT-Advanced プロセスにおける TTA 入力の受領確認、IEEE 技術) – IMT-ADV/7,
5D/TEMP/260Rev.1 (IMT-Advanced プロセスにおける 3GPP 提案者入力の受領確認、3GPP 技術) – IMT-ADV/8
5D/TEMP/261Rev.2 (IMT-Advanced プロセスにおける中国入力の受領確認、3GPP 技術) – IMT-ADV/9,
5D/TEMP/262Rev.2 (技術提案に関する IEEE へのリエゾン(5D/542)),
5D/TEMP/263Rev.2 (技術提案に関する日本へのリエゾン(5D/544)),
5D/TEMP/264Rev.2 (技術提案に関する日本へのリエゾン(5D/545)),
5D/TEMP/265Rev.2 (技術提案に関する TTA へのリエゾン(5D/560)),
5D/TEMP/266Rev,2 (技術提案に関する 3GPP 提案者へのリエゾン(5D/564)),

5D/TEMP/267Rev.2 (技術提案に関する中国へのリエゾン(5D/580)),
5D/TEMP/268Rev.1 (評価グループへのリエゾン),
5D/TEMP/269Rev.1 (回章 5/LCCE/2 Addedum 3),
5D/TEMP/2701Rev.2 (IMT-Advanced 評価に関するコレスポンドンス・グループの所掌),
5D/TEMP/286 (SWG 議長報告)

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は、IMT-Advanced 無線インタフェース技術開発プロセス（提案・評価プロセス）のステップ3（提案の受領および受領確認）、ステップ5（外部評価グループ活動のレビューと調整）、およびステップ7（評価結果の考慮、コンセンサス・ビルディングおよび決定）においてコーディネーションを行う WP5D のフォーカル・ポイントをなすことである。

(5-2) 審議概要と主要結果

本 SWG 会合は今会期中に 8 回開催された。今会合が IMT-Advanced 無線インタフェース技術の提案締め切りであり、複数の技術提案があったことから、これらの提案の取り扱いについて審議した。オープニングプレナリ、および WG Technology Aspects で作業方法として、5D/548、5D/586、5D/587 に基づくことが合意済みであったので、これらの寄与文書をベースに議論が進められた。

まず技術提案の特定について、合計 6 つの提案があることを確認した。これらは、5D/542(IEEE)、5D/544(日本)、5D/545(日本)、5D/560(TTA)、5D/564(3GPP 提案者)、および 5D/580(中国)である。なお、5D/564(3GPP 提案者)については、ITU IPR ポリシーへの適合宣言が 3GPP OP の寄与文書(5D/565, 5D/566, 5D/568, 5D/569, 5D/588)に含まれており、これらを寄与文書が一体であることで合意した。

これらの提案が「完全な」提案であり、ITU-R として受領可能であることを確認する作業を行った。「完全」な提案であるためには、レポート ITU-R M.2133 4.1 章にある、各種テンプレート、自己評価レポート、および ITU IPR ポリシーへの適合宣言が含まれている必要がある。これらの情報を確認するチェックリストを含む、受領確認文書を 5D/586 Annex2 をベースに完成した。さらに 6 つの提案にこのチェックリストを適用し、すべての提案が「完全な」提案であることを宣言した。これにより IMT-Advanced プロセスのステップ 3 は完了となり、6 つの提案を SWG Evaluation に送付して、技術的な評価を開始することとなった。なお、受領確認文書を 6 つの提案それぞれに作成している（TEMP/256 から TEMP/261）。これらの文書はすべて IMT-ADV 文書として、ITU-R の IMT-Advanced 開発・評価のためのウェブページに掲載されることとなった。この過程で、提案名称について提案者以外から多くの修正意見が出され議論がまとまらなかった。このため、提案名称については決定せず、提案者名と関連寄与文書番号の参照で提案を認識することとなった。例えば、IEEE からの IEEE802.16 ベースの RIT 提案は、「IMT-Advanced プロセスにおける IEEE 入力 (IEEE 技術) (5D/542 と寄与文書タイトルをフットノートで参照)」、および 3GPP からの LTE ベースの SRIT 提案は、「IMT-Advanced プロセスにおける 3GPP 提案者入力 (3GPP 技術) (5D/564 と寄与文書タイトルをフットノートで参照)」、となっている（他の提案も同様）。なお、SWG EVALUATION では、日本および TTA の IEEE802.16 ベースの RIT 提案は IEEE 提案と、日本の LTE ベースの SRIT 提案および中国の TDD RIT 提案は 3GPP 提案者の提案と、それぞれ技術的に同一であるとの認識で合意した。関係者によるオフライン会合の結果、IMT-ADV/5（日本の IEEE 技術提案）、IMT-ADV/6（日本の 3GPP 技術提案）、IMT-ADV/7（TTA の IEEE 技術提案）、および IMT-ADV/9（中国の 3GPP 技術提案）の Section8 に「IEEE または 3GPP 技術提案と同じ評価が適用できる」との記述を追加した。これは実質上評価グループは 2 つの提案を評価すれば十分あることを示す注意である。

引き続き、各提案者（IEEE、日本（IEEE 技術と 3GPP 技術の両方）、TTA、3GPP 提案者、中国）へ提案受領

を知らせるリエゾンを審議した。これは 5D/568 Annex3 をベースに議論が行われ、提案名称について上記と同様のアプローチを取ることで作成された。これらのリエゾンには、関連する受領確認文書、回章 5/LCCE/2 Addendum 3、および外部評価グループへのリエゾンが添付される。

さらに外部評価グループへのリエゾンを 5D/568 Annex4 をベースにして作成した。内容は、6つの提案を受領したこと、評価レポートを 2010 年 2 月の第 7 回会合に中間報告として、2010 年 6 月の第 8 回会合に最終報告を要求し、また中間報告として希望する内容およびその策組みを知らせるものとなった。さらに上記 IMT-ADV 文書 Section8 への注意喚起が追記された。

回章（サーキュラター）5/LCCE/2 の Addendum 3 は、5D/586 Annex5 をベースにドラフト作業が行われ合意された。内容は、6つの提案を受領したことと、今後の作業スケジュールについて通知するものである。

最後に 5D/548 で提案されているコレスポンドランスグループについて議論が行われた。SWG 議長と ITU-R SG5 事務局との協議の結果、ITU メンバー以外（例えば、一部の評価グループおよび提案者）が参加するコレスポンドランス・グループの設立が可能との結論に達したので、SWG 議長からその所掌に関する文書案が示された。内容は、3つのコレスポンドランス・グループを設立して、それぞれ IEEE 技術関連、3GPP 技術関連、および評価ガイドラインに関する議論を行うものである。本文書案に、ITU 外部団体および ITU TIES ユーザのコレスポンドランス・グループへのアクセス形態を追加、また 3 つ目のコレスポンドランス・グループの所掌を「評価グループ間の情報交換」に修正して、これを承認した。なお、WG Technology Aspects 会合では、3つのコレスポンドランス・グループを 1 つにまとめて、その中で同様の 3 つのトピックスを持つ修正が加えられた。

(6) 今後の課題：

次回第 7 回会合には、評価グループから中間報告の評価レポートが入力されることが期待される。これら評価レポートの扱い、第 7 回会合後の評価グループを含めた中間会合の可能性、および今後の SWG の具体的アクションについて検討する必要がある。

5. 3 WG SPECTRUM ASPECTS

(1) 議長：Alan Jamieson（ニュージーランド）

(2) 主要メンバー：米、加、英、仏、独、露、スウェーデン、フィンランド、中、韓、印、イソ、ニュージーランド、ケルコム、アルカテル-セント、エリクソン、キア、インテル、UMTS-F、WiMAX-F、坂中、橋本、小松、佐藤（孝）、佐藤（一）、広池、菅田、北、新、全 100 名程度

(3) 入力文書：Doc.5D/

①全般：526（第 5 回会合議長報告、Ch.2, Att.2.9, Ch.5）

②SWG Sharing Studies：

- 527 (WP3M)、534 (WP4A)、540 (加)、552 (ケルコム)、555 (WiMAX-F)、559 (日)、582 (スウェーデン)、583 (仏)、589 (エリクソン他)、591 (WP1A)
- 前回からのキャリアフォワード 422(Rev.1) (独)、436 (TIA)、440 (IEEE)、448 (WiMAX-F)、449 (WiMAX-F)、450 (WiMAX-F)

③SWG Frequency Arrangements：

- 531 (CEPT)、538 (米)、541 (加)、547 (日)、549 (露)、550 (独)、551 (独)、553 (UMTS-F)、554 (UMTS-F)、557 (WiMAX-F)、562 (韓)、571 (印)、573 (テレストラ)、584 (中)、585 (中)

(4) 出力文書：Doc.5D/TEMP

- 254 レポート M.2039 改定案作成のため作業文書
- 255 新勧告案[IMT.PFD]に対する SG4 議長へのノート

- 271 [IMT.700]の作業文書
- 273 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改定案作成の作業計画
- 274 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改定案作成のための作業文書
- 275 SWG Frequency Arrangements 議長報告
- 277 SWG Sharing Studies 議長報告
- 278 WRC-12 議題 1.17 の検討における IMT パラメータの修正に関する JTG5-6 へのリエゾン文書
- 279 IMT を含む陸上移動業務の基地局併設時等の共用に関する新レポート案[ANT ISO]の作業文書
- 280 WRC-12 議題 1.22 の検討に関する WP1A への返答のリエゾン文書
- 281 SWG Sharing Studies に関する作業計画
- 282 P シリーズ勧告の使用法に関するハンドブック作成に対する WP3M への返答のリエゾン文書
- 283 WRC-12 議題 1.17 の検討における IMT パラメータに関する外部団体へのリエゾン文書
- 284 新レポート案[ANT ISO]の検討開始を知らせる WP5A へのリエゾン文書
- 287 WG Spectrum Aspects 議長報告

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

WG Spectrum Aspects(WG-SPEC)は、IMT の周波数全般に関連する事項についての検討を行うことを所掌とし、周波数アレンジメント勧告の改訂、共用検討関連の検討、リエゾン文書の作成について議論を行った。

(5-2) 体制

第 1 回 WG 会合において、SWG-Sharing Studies と SWG-Frequency Arrangements の 2 つの SWG を設置することが承認された。SWG-Sharing Studies は M. Kraemer 氏（独）が議長、SWG-Frequency Arrangements は Y. Zhu 氏（中）が議長、A.Sanders 女史（米）が副議長として、それぞれ担当することが承認された。

SWG の構成は以下の通り。

SWG 名	SWG 議長・副議長	主なトピック
SWG-Sharing Studies	議長 M. Kraemer氏（独）	共用検討
SWG-Frequency Arrangements	議長 Y. Zhu氏（中） 副議長 A.Sanders女史（米）	勧告M.1036-3の改訂、IMT.700の検討

(5-3) 審議概要と主要結果

第 1 回会合では、SWG の設置を承認した。SWG に割り振られた文書は各 SWG で審議することとした。

第 2 回会合（最終）では、各 SWG の審議結果について議論が行われた。まず、各 SWG 議長からの報告（SWG Sharing Studies : TEMP/277、SWG Frequency Arrangements : TEMP/275）が行われたが特段質疑はなかった。引き続き、SWG Sharing Studies が作成した、以下の出力文書の審議が行われた。なお、SWG Frequency Arrangements からは審議すべき出力文書はなかった。

<審議された出力文書>

TEMP/255 新勧告案[IMT.PFD]に対するSG4 議長へのノート

- ・ 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることとした。

TEMP/278 WRC-12 議題 1.17 の検討におけるIMTパラメータの修正に関するJTG5-6 へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/283 WRC-12 議題 1.17 の検討におけるIMTパラメータに関する外部団体へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/280 WRC-12 議題 1.22 の検討に関するWP1Aへの返答のリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/282 Pシリーズ勧告の使用法に関するハンドブック作成に対するWP3Mへの返答のリエゾン文書

- ・ ノーテルより勧告 P.452 の移動業務の共用検討への適用可能性について確認のコメントがあった。SWG 議長からは、WP3M からのリエゾン文書の趣旨は、P シリーズの勧告がどのような例で使われているかを求めており、適用の妥当性にまで言及する必要ないと回答があり、必要に応じて次回 WP5D 会合で議論しても良いとコメントがあった。
- ・ 特段修正は行わないで、WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/284 新レポート案[ANT ISO]の検討開始を知らせるWP5Aへのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることにした。

以上の出力文書の審議に加えて、次回会合へキャリアフォワードする文書の確認が行われた。

- ・ SWG Sharing 5D/422(Rev.1)、449、450、TEMP/254、279、281
- ・ SWG Frequency Arrangements TEMP/271、273、274

以上で、WG Spectrum Aspects の審議を終了した。

(6) 今後の課題：

- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改定、及び作業文書[IMT.700]については、我が国では 3400-3600MHz 帯、及び 698-806MHz 帯の一部を IMT に使用予定であることを踏まえ、引き続き、適切に対処していく必要がある。
- ・ 勧告 M.1036-3-3 の改定の作業に対しては、3400-3600MHz 帯の周波数アレンジメントのより具体的な提案等を含め、次会合以降も継続的な対応が必要である。
- ・ 作業文書[IMT.700]については、目的の明確化を求める意見が複数の国（米、英、仏、露、等）から出されている点、作業文書には日本からの提案テキスト（700/900MHz 帯をペアリングにした周波数アレンジメントの考え方）が含まれている点等を踏まえ、対処を検討していく必要がある。
- ・ 共用検討に関連し、新勧告案[IMT-Mitigation]の作成、レポート M.2039 の改定、新レポート案[ANT ISO]の作成の作業が、今後本格化すると想定され、我が国にとって不利となる拙速な結論が導かれないよう注視していく必要がある。
- ・ 新勧告案[IMT-Mitigation]の作成については、レポート M.2109 の干渉軽減技術の章に基づいて議論が行われるが、当該章には我が国が貢献した内容が多数含まれており、新勧告案の作成にあたっては積極的な対処を検討していく必要がある。

5. 3. 1 SWG SHARING STUDIES

- (1) 議長：Mr. M. Kraemer（独）
- (2) 主要メンバー：米、加、英、独、仏、露、Sweden、Finland、ロシア、中、韓、印、豪、NZ、他各国、UMTS-F、WiMAX-F、日本代表団（坂中、広池、新、菅田、小西、畑川、北、小松）約70名程度
- (3) 入力文書：5D/422R1 (Germany), 436 (TIA), 440 (IEEE), 448,449,450 (WiMAX Forum), 5D/527 (WP 3M), 534 (WP 4A), 540 (Canada), 552 (Qualcomm), 555(WiMAX Forum), 559 (Japan), 582 (Sweden), 583 (France), 589 (Industry), 591 (WP 1A)
- (4) 出力文書：Doc.5D/TEMP
- 255 3.4-3.6GHz 帯の IMT に対する PFD 制限値の算出法に関する SG4 議長へのノート
 - 278R1 790-862MHz 帯の IMT に関わる共用検討パラメータの修正に関する JTG5-6 へのリエゾン文書
 - 280 WRC-11 議題 1.22 の SRD の検討に関する WP 1A へのリエゾン文書
 - 282 伝搬モデルのハンドブックに関する WP 3M へのリエゾン文書
 - 283R1 JTG5-6 に送付したリエゾンに関する外部機関へのリエゾン文書
 - 284 アンテナアイソレーションに関する WP5A へのリエゾン文書
 - 254 共用検討パラメータのレポート ITU-R M.2039 の改訂のための作業文書
 - 279 アンテナアイソレーションに関する PDN Report に向けた作業文書
 - 281 WG Sharing Studies に関する作業計画（M.2039、ANT ISO、IMT Mitigation を含む）
 - 277 SWG Sharing Studies の議長報告

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG は、IMT-2000、IMT-Advanced の周波数帯における共用検討、共用検討に用いるパラメータを主な所掌とし、WP5D 第 2 回会合から M. Kraemer 氏（独）が SWG 議長を務めている。

今会合では、前会合で JTG5-6 に送付した WRC-12 議題 1.17 の検討における IMT パラメータの修正に関するリエゾン文書、3.4-3.6GHz の PFD 制限値の算出法に関する勧告案（S.[IMT.PFD]）に関する SG4 議長へのノート、伝搬モデル勧告のハンドブック作成協力に関する WP3M からのリエゾンへの回答文書、その他各種リエゾン文書への回答等についての審議が行われた。

(5-2) 体制

第 1 回 SWG 会合において、下表の通り 2 つのドラフティンググループを設置することとし、それぞれ前回と同じ議長が承認された。

名称	議長	内容
DG UHF Parameters /Report M.2039	J.P. Millet 氏（仏）	JTG5-6 に送付した WRC-12 議題 1.17 の検討に関わる IMT パラメータの修正に関するリエゾン文書、共用検討パラメータに係るレポート M.2039 の改訂作業
DG IMT-PFD	J. Lewis 氏（サムソン）	WP4A からの 3.4-3.6GHz 帯に適用する PFD 制限値の算出法に関するリエゾン文書への対応

(5-3) 審議概要と主要結果

第 1 回会合では、2 つのピリオドを使って SWG に割り当てられた文書の紹介と質疑が行われ、上記 2 つのドラフティンググループの設立が合意され、DG 議長が承認された。主な審議内容と結果は以下の通りである。

①異なる復信方式に関する共用検討（入力文書：5D/422R1, 449, 450）

- ・ SWG 議長より、入力文書は WP5D 第 5 回会合で SWG-M.1457 からの内部リエゾンに基づいて、新たな共用検討を行うかどうか課題になってキャリアフォワードされたものであると説明し、今後の扱いに対する意見を求めた。
- ・ WiMAX-F、独らが共用検討の必要性を主張する一方、Qualcomm、FT らが、検討するにはパラメータが足りないなどと必要性に疑念を示し、WG-SPEC 議長の提案で、5D/422R1, 449, 450 をキャリアフォワードし、JTG5-6 の結果をレビューするなど、再度入力文書を募って継続検討することとした。

②UHFパラメータ／レポートM.2039 関連（入力文書：5D/555, 559, 583）

- ・ SWG 議長の提案で、ドラフティンググループで JTG5-6 にパラメータの修正を伝えるリエゾン案、M.2039 の改訂に向けた作業文書を日本の提案(5D/559)を考慮しながら作成することとし、DG 議長には J.P.Millet 氏（仏）が担当することになった。

③勧告案 ITU-R S.[IMT-PFD]関連（入力文書：5D/534, 582, 589）

- ・ J.Lewis 氏（Samsung）より、WP4A において WP5D のコメントを反映して新勧告案（DNR）として SG4 に承認を求めたこと、SG4 では WP5D の確認を得る条件で採択承認手続き(PSAA)に入ることが合意されたこと、WP5D にはコメントする機会があること等が説明された(5D/534)。一方、Sweden 及び欧州の通信業界（オペレータ、ベンダー）らがメソッド2のコンタ図が I M T の導入に不利な印象を与える懸念があるとし、図の削除または適切なテキストの追加を求めたほか、別途 WP5D での勧告作成を提案した。(5D/582, 589)
- ・ 露から、図の削除には反対だが干渉回避技術に関するテキスト追加ならよい、WP5D が干渉回避技術を含めて作成する場合、勧告でなくレポートとすべき、二国間あるいは多国間の合意に関わる特定の干渉回避技術は ITU レベルで議論すべきか疑問、等のコメントがあった。
- ・ 米から、図を含んだ作業文書をレビューする機会が 5 D には少なくとも 2 回あったのに何故今頃かとの質問があり、Sweden から小さな官庁なので十分にレビューする機会が無かったと回答された。
- ・ SWG 議長により、J.Lewis を議長としてドラフティンググループを開催し、WP4A へのリエゾン案として、WP5D で合意可能なテキストを作成すること、WP5D での M シリーズの勧告またはレポートの作成を検討することが提案され、合意された。
- ・ また、仏より干渉回避技術を含んだレポート M.2109 が既に存在するので勧告を推奨するとコメントし、WG-SPEC 議長（Alan）から既存のレポートに他の要素を加えて勧告にすることも可能と指摘された。

④併設時のアンテナアイソレーション関連（入力文書：5D/540, 552）

- ・ カナダ、Qualcomm、Ericsson らで入力文書をマージした作業文書をオフラインで作成し、新規レポートに向けたスターティングポイントとし、次回にキャリアフォワードすることになった。また、韓国から、ITU-T において、5 D からのリエゾンにより作業を中止したと情報提供された。

⑤WRC-12 議題 1.22（SRD）関連（入力文書：5D/591）

- ・ SWG 議長が、WP1B の作業文書（1 A/207 Annex 4）をレビューして、次回セッションまでにリエゾン案を作成することとした。

⑥伝播モデルに関するハンドブック関連（入力文書：5D/527）

- ・ SWG 議長が、次回セッションまでにリエゾン案を作成することとした。
- ・ WiMAXF より勧告 P.1411 が含まれていないと指摘し、露が P.1411 はコーディネーション用でなくセル設計用である、Qualcomm から P.1411 は WP3M でなく WP3K が責任 WP とコメントされた。Alcatel-Lucent から、新勧告案 P.[IMT.PFD]では勧告 P.452 を使っているが版数が違うと指摘し、J.Lewis 氏から、新勧告案には最新版を使うよう FootNote が付いているとコメントされた。仏から、P.452 は複雑であると指摘し、

3M へのリエゾンに「P.452 は複雑で使いにくい」とコメントすることになった。

第 2,3 回会合では、各 DG からの進捗報告を受けると共に、SWG Sharing Studies からの出力文書案 (Sharepoint 内の作業文書 : SWG Sharing 1 ~ 9) の審議が行われた。主な審議内容と結果は以下の通りである。

①SWG Sharing 1 Rev1 (LS to JTG 5-6)

- ・ DG 議長から、先に JTG 5-6 に対して送ったリエゾンの修正でなく新たなリエゾンとして作成し、Attachment 2 のユーザ密度に関する黄色にハイライトした部分に変更点と説明された。
- ・ SWG 議長によりカバーページ、変更箇所の確認が行われ、変更箇所の脚注 57 の説明文をイラン、WiMAXF、Samsung、Intel らの指摘による修正のうえ、WG-SPEC に諮ることを合意した。
- ・ 第 3 回会合で、オフラインの議論の結果として脚注 5 7 の後半の説明文に代替案 (ALTERNATIVE) を追加したものが提示され、ロシア、インド、イラン、Alcatel-Lucent、DG 議長らの指摘・修正の議論の後に、WG-SPEC に諮ることが合意された。(5D/TEMP/278)

②SWG Sharing 2 (WD Rev. M.2039)

- ・ SWG 議長より、これは DG で作成された作業文書で、ITU-Web にある最新 Version への修正案で、IMT-Advanced を含むか別にするか等の further input を求める Editor' s note や、JTG に送ったリエゾンのパラメータ追加、他の周波数帯のブレースホルダを含むものと説明された。
- ・ イランの指摘で、Introduction の WRC-07 での周波数追加のテキストの後に「See Article 5 of the Radio Regulations and relevant Footnote」を追加して、WG-SPEC に諮ることになった。(5D/TEMP/254)

③SWG Sharing 3 (LS to WP 4A)

- ・ SWG 議長より前日の DG の結果であると説明され、DG 議長 (J.Lewis 氏) より SG5 議長 (橋本氏) のコメントも反映していると説明された。
- ・ イランの指摘により、カバーページのタイトルはリエゾンでなく WP5D 議長から SG4 議長への NOTE とし、Copy を SG5 議長とすること、WP5D believe -> WP5D propose、Figure の統一に関する Editorial な提案の削除、Attachment の脚注 2 に「See 5. 4 3 0 A」の追加、日本の指摘により脚注 3 の図 10 に図 11,12,13 の追加が行われ、コンタクトを J.Lewis 氏として、WG-SPEC に諮ることを合意した。(5D/TEMP/255)

④SWG Sharing 8 (LS to EO)

- ・ 外部機関に対して、790-862 MHz 帯の干渉検討に使用すべき IMT パラメータを修正したことを伝えるリエゾンで、JTG5-6 へのリエゾンを添付したもの。
- ・ 仏の指摘で JTG5-6 へのリエゾンは前回のリエゾンの修正でなく新たなリエゾンであることを明確にする修正を行って WG-SPEC に諮ることが合意された。(5D/TEMP/283)

⑤SWG Sharing 7 (LS to WP 3M)

- ・ WP3M が、共用検討/アセスメントに利用可能な伝搬モデル勧告に関するハンドブックを作成する計画であるとのリエゾンに対する回答で、WP5D と WP4A が連携して作成した新勧告案 P.[IMT.PFD]が勧告 P.452 を使用していること、WP5D で P シリーズ勧告をレビューしてコメントすることを伝えるもの。
- ・ 仏の指摘で、勧告名の前に「ITU-R」を追加する Editorial な修正を加えることで、WG-SPEC に諮ることが合意された。(5D/TEMP/282)

⑥SWG Sharing 4 (WD antenna iso.)

- ・ 入力文書に基づいて作成された、アンテナ・アイソレーションに関するレポートの作業文書。
- ・ Qualcomm の提案に基づき Editorial な修正をオフラインで実施すること、タイトルに「地上系 (LAND)」を追加すること、インテル及びイランの指摘に基づき Scope のテキストを修正することで、WG-SPEC に

諮ることが合意された。(5D/TEMP/279)

⑦SWG Sharing 9 (LS to WP5A on antenna iso.)

- ・ ITU-T SG5からのリエゾンに基づいて WP5D でアンテナ・アイソレーションに関するレポートの作成を開始したことを伝えるリエゾン。
- ・ イランの指摘で、タイトルに「地上系 (Land)」の追加及び本レポートの完成時期の追加、仏の指摘で M シリーズレポートであることの明確化、Qualcomm の推薦でコンタクトポイントを Ericsson の Sverker 氏とすることで、WG-SPEC に諮ることが合意された。(5D/TEMP/284)

⑧SWG Sharing 5 (LS to WP 1A on SRD)

- ・ WRC-12 議題 1. 2 2 (SRD) に関する WP1A からのリエゾンに関する回答で、SRD から IMT を保護するための基準値に関する情報を Ssection 1.4 of Annex 8 to Report ITU-R SM.2057 から引用して伝えるもの。
- ・ Alcatel-Lucent の指摘で前回送付したリエゾンの文書番号を参照として追加すること、SG5 議長 (橋本氏) の指摘で本議題に対する SG5 内の Focal Point である WP5A にも Copy として送付すること、イランの指摘で WP5D が関係する radiocommunication services は IMT であることの明確化、コンタクトをオフラインで決めて追加することで、WG-SPEC に諮ることが合意された。(5D/TEMP/280)

⑨SWG Sharing 6 (Workplans)

- ・ SWG 議長より、レポート M.2039 に関して 外部機関とのリエイズ時期の変更、アンテナ・アイソレーションに関する記述の変更、3.4-3.6GHz 帯の干渉回避技術に関する新勧告の作成の追加、これらの完成時期を第 9 回とする全体スケジュールへの追加、が説明された。
- ・ 特段のコメントなく、WG-SPEC に諮ること、AH-Workplan の文書に含めることが合意された。(5D/TEMP/281)

(6) 今後の課題 :

- ・ 790-862MHz 帯における IMT パラメータの取りまとめに伴うレポート M.2039 の改定、IMT-2000 ネットワークの基地局併設時の共用検討、勧告 M.1457 への異なる複信方式の追加に関する共用検討の必要性の議論が継続されるため、我が国にとって不利となる拙速な結論が導かれないよう注視していく必要がある。
- ・ また、今後 WP5D で作成するとした干渉回避技術に関する勧告草案の作成においても、積極的に貢献する必要がある。ただし、ワークプランでは 2010 年 10 月の WP5D 第 9 回会合を完成時期としており、作業期間も考慮しながらスコープや内容を検討する必要がある。

5. 3. 1. 1 DG Sharing UHF Parameter

(1) 議長 : Mr.J.P.Millet(仏)

(2) 主要メンバー : 仏、独、伊、英、米、露、スウェーデン、フィンランド、中国、韓国、NZ、イラン、他各国、WiMAX-F、Intel、Qualcomm、Alcatel-Lucent、Motorola、Samsung、Vodafone、Nokia、NSN、Ericsson、France-Telecom、GSMA、橋本、広池、新、小松、小西、菅田、北、他 全 70 名程度

(3) 入力文書 : Doc.5D/555(WiMAX-F), 559(Japan), 583(France)

(4) 出力文書 : 5D/TEMP

278Rev.1 JTG 5-6 へのリエゾン文書(5-6/93)に対する置き換え依頼のリエゾン文書
254 レポート M.2039-1 に向けた作業文書(キャリアフォワード)

(5) 審議概要 :

(5-1) 所掌と経緯

第5回ジュネーブ会合では、790-862MHz帯におけるIMTパラメータの開発を行い、JTG 5-6に対してはWRC-12議題1.12に関するリエゾンバック(5-6/93)を作成した。また、790-862MHz帯のパラメータ検討が進んだことによりIMT共用検討パラメータレポートM.2039の改訂のワークプランが作成された。

第6回ドレスデン会合では3件の入力文書が入力されたためSWG Sharing Study議長の提案により、DGにおいてWiMAX-F, France提案を基にJTG 5-6への5-6/93への修正を伝えるリエゾン文書案、レポートM.2039の改訂に向けた作業文書を日本からの提案を考慮して作成することになり、DG議長にはWP5D第5回会合に引き続き仏のMillet氏が選出された。

(5-2) 審議概要と主要結果

DGではAgendaは作成されず、議長より入力されたリエゾン文書案、レポート改訂作業文書案をそれぞれ審議した。

1) JTG 506 へのリエゾン文書 5-6/93 の修正について

- WiMAX-Fからの入力を基にDG議長がユーザ密度についての算出がFDD-CentricであるNoteを追記したが、IntelからはNoteの対象へのコメント、NSNからTDDに関しても考慮して算出したとコメントがあったが、オフラインで文書の修正を協議することとなった。独からはWiMAX-Fの提案のうちIMTへの周波数の割り当て状況についてはFDD, TDDに関わらず一般的なポイントとして重要とし、独で文書を準備するとコメントがあった。
- 仏からの修正提案に関してはWP5D第5回会合後に日本からオフラインで確認した内容の修正提案であり、特段コメントなく修正が反映された。
- 議長より修正提案をどのように扱うかについて確認のコメントがあり、Alcatel-Lucentからは5-6/93 Rev1とするのが良いとコメント、Qualcomm、Samsungがこれをサポート。WG SPEC議長がオフラインで確認するとコメント。
- 上記の議論を実施しオフラインでの修正を加えることとし、JTG 5-6への修正の議論は終了した。

2) レポート M.2039 改訂に向けた作業文書について

- 議長より既存のレポートM.2039に対してJTG 5-6へのリエゾン文書の内容をレポートに反映、周波数帯ごとのセクションが作成された作業文書案が入力された。1章にWRC-07での周波数の特定に関する記載が追記されていたが独、NZからのコメントを受け一部修正を実施した。
- WiMAX-FよりIMT-2000の表記のIMTへの修正の提案があったが、独、Samsungからは将来のレポートにはIMT-Advancedまでを含めるべきだが現段階ではIMT-2000のパラメータに絞られるとコメント。さらにDG議長からはIMTに表記に関してはレポート改版の最終化の段階で議論すればよいとコメントがあり、現状のIMT-2000の表記が維持された。
- 作業文書案には"Generic set of parameters"の項目があり、日本からは入力文書で意見入力したSpecific Parametersのみを扱うことをコメント。一方、独からは"Generic set of parameters"に対してはupdateを準備しているとコメントがあり、Ericssonからは"Generic set of parameter"はAWF等で必要な作業の多くをカバーしているが、update作業にインパクトがあるとコメント。議論の結果、現時点では"Generic set of parameters"に関してはレポートに含めないことを合意。DG議長からはEditor's Noteを追記するとコメント。
- 798-862 MHz帯のパラメータに関して698-806 MHz帯へも適用可能ではとのコメントがあり、698/700-806/862 MHzと章題を変更、確認の必要性をEditor's Noteで追記。France-Telecomからは900 MHz帯の項目の追加が必要とコメントがあり900/1800 MHz帯の章題を追記した。周波数帯に関してはグループ化(2, 2.3, 2.5 GHz帯, 698-802 MHzと900 MHz帯)の可能性があり、Editor's Noteを追加、NZからはグループ化に

関しては外部団体へのリエゾン文書が必要だが多くの質問するポイントがあるとコメント。独からはこれまでの外部団体へのリエゾン文書は 798-862 MHz 帯に特化していたため範囲を広げて質問する必要があり、今回で急いでリエゾン文書を作成するよりも次回までに質問事項を明確化したほうが良いとコメント。

- 上記結果を基にワークプラン内の外部団体への情報提供に関するリエゾン文書の作成に関しては第 6 回会合から第 7 回会合へ修正すると SWG 議長からコメントがあり、DG 議長からはこの作業文書を TEMP 文書案として SWG Sharing Study で審議するとし DG は終了。
- SWG Sharing Study, WG SPEC を経て TEMP/278R1, 254 はそれぞれ Plenary で承認された。

(6) 今後の課題：

レポート M.2039 の改訂に関して今回日本から提案した"Generic Set of Parameters"に関しては作業文書に含まれなかったが、Editor's Note での確認事項となっているので引き続き審議の動向に注意し、日本にとって不都合が生じないように改定作業に適切に対応する必要がある。

5. 3. 1. 2 DG IMT PFD

(1) 議長：Mr. J. Lewis (Samsung)

(2) 主要メンバー：米、加、英、独、仏、露、Sweden、Finland、ロシア、中、韓、印、豪、NZ、イラン他各国、UMTS-F、WiMAX-F、日本代表団（橋本、広池、新、菅田、北、小松）約 70 名程度

(3) 入力文書：5D/527(WP3M), 534 (WP4A), 582(Sweden), 589 (Industry)

(4) 出力文書：Doc.5D/TEMP

255 3.4-3.6GHz 帯の IMT に対する PFD 制限値の算出法に関する SG4 議長へのノート

281 SWG Sharing に関するワークプラン（干渉回避技術に関する勧告草案の部分）

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

本 DG は、SWG-Sharing 第 1 回会合において、WP3M(5D/527)、WP4A (5D/534)、Sweden (5D/582)、欧州の通信業界 (5D/589) の入力文書の審議により、WP4A へのリエゾンバックを作成することを目的に設立された。

DG 議長には、WP5D 第 5 回会合で WP4A に発出したリエゾン文書のコンタクトポイントであった、J.Lewis 氏 (Samsung) が指名された。

会合では、DG 議長が作成した Sharepoint 内の作業文書 (Proposals concerning Draft New Recommendation ITU-R S.[IMT-PFD] and associated matters) と SG4 における Summary of record の抜粋を用いて、3.4-3.6GHz 帯の IMT に対する PFD 制限値の算出法の勧告案 S.[IMT.PFD]に関する SG4 議長宛のノート及び WP5D における今後の作業についての審議が行われた。

(5-2) 審議概要と主要結果

1) 勧告案 ITU-R S.[IMT-PFD] に関する提案（作業文書の本文、全般）

- ・ DG 議長より、SWG-Sharing における WP3M、Sweden、Industry、WP4A の入力文書に関する議論の概要として、①図 11～13 は例であることの明示、②アセスメントに使用するパラメータは伝搬モデルを含めて主官庁間で合意したものを使用すること、③WP5D で M シリーズの勧告を作成し、既存の IMT と FSS の共用検討レポート(M.2109)をベースとすること、であったと説明され、具体的な追加テキスト (Annex1)、リエゾン案 (Annex 2)、新勧告のワークプラン (Annex3)、レポート M.2109 の干渉回避技術部分の抜粋 (Annex4) が紹介された。
- ・ イラン (アラステ氏) より、「Industry の懸念は分かるが、SG4 の採択プロセスを止めることは問題」と指摘し、DG 議長は「Summary of record にあるように問題があれば BR、WP4A 議長、WP5D 議長で解決す

るとしている」、Sweden も「WP4A からのリエゾンで、採択手続きの回章は WP5D 会合の後にするとして
いる」、カナダも「5D/533 (SG5 議長の間報告) の Annex4 (Attachment4) の RAG の合意事項にあるよ
うに、1 を超える WP の作業では相手の承認が必要」と、WP5D からコメントすることの正当性をコメン
トした。WG-SPEC 議長(Alan 氏)は、変更は少なくし、変更の提案は文書の品質を改善するためのものとし
て提案することを推奨した。イランも、コメント (リエゾン) を出すことを承知し、宛先を WP4A 議長宛
とし、SG4 議長、SG5 議長にも送付することを提案した。

2) 変更箇所の説明 (作業文書の Annex 1)

- ・ DG 議長より、DNR (4/105R1) への変更箇所として、「例」を各所に追加すること、主管庁で合意すべきパ
ラメータの明確化に関する脚注を説明した。
- ・ イランより、提案箇所の意図が分からない、これでは WP4A 議長、SG4 議長らに WP5D の懸念が分から
ない、と指摘した。DG 議長は、図が例に過ぎないことを明確化すること、昨日の SWG-Sharing で仏(J.P.Millet
氏)が伝搬モデルの複雑性を指摘したことを挙げて説明した。
- ・ カナダ (J.Costa 氏) から、伝搬モデルの ITU-R 勧告 P.452 が移動業務に適用できないのではと質問し、ロ
シアから基地局は固定と考えられる、SG3 (3M) も移動業務にも適用できるとしたはずと回答し、DG 議
長は移動局の送信は最悪ケースでなく固定局送信が最悪ケースになり移動業務であるとしても基地局の検
討には P.452 が使用できるとした。

3) WP4A へのリエゾン案について (作業文書の Annex 2)

- ・ DG 議長が、段落ごとに主旨を説明した。
- ・ イランより、第 3 段落の主管庁間の合意に関する b) が長すぎて分かり難いこと、「in particular」は削除す
るよう求め、DG 議長が後で修正することとした。また、最後の「WP5D の提案箇所を修正しない場合は、
受け入れられない」との文言はネガティブとして、ポジティブな表現にするよう求め、米、Alan 氏らの提案
で、「変更により採択手続きが促進される」との表現に修正された。SG5 議長 (橋本氏) より、本勧告は SG5
と SG4 が共同責任なので、タイトルの末尾に「This should be draw attention of SG5」の脚注を付けるよう
求め修正された。
- ・ イランより、今後 WP5D が勧告を作成する場合は、今回と同様に WP4A との共同作業であり、SG4 と協働
する必要がある、承認前に WP4A に問い合わせる必要があると指摘し、DG 議長から SWG 議長、WG-SPEC
議長らで注意すると回答し、WG-SPEC 議長も RAG の決定に従うとした。

4) WP5D で作成する勧告のワークプラン (作業文書の Annex3)

- ・ DG 議長が、概要を説明した。
- ・ イランより、WP4A と連携する必要がある、マイルストーンに「Liaise to WP4A」を入れる必要があると指摘
し、第 7 回会合、第 8 回会合に追加した。また、主管庁間の調整には、9.21、PFD、9.18/9.17 の 3 つのプ
ロセスがある、WP5D が扱わなければ WP4A が行う必要があるとの指摘に、DG 議長は、WP4A の PDR の
Scope にも「9.17、9.18、9.21 については対象外」と明記されているとコメントした。また、タイトルが長
すぎるとし、DG 議長、米、仏らの提案で、短い表現に修正した。

5) WP5D で作成する勧告のベース (作業文書の Annex 4)

- ・ 前記の (1) 概要の説明で、「既存の IMT と FSS の共用検討レポート(M.2109)をベースとする」との方針が
説明されただけで、具体的な内容の説明は行われなかった。

6) 最後に、DG 議長から、上記議論を踏まえ、リエゾン案、ワークプラン案を微修正し、SWG-Sharing に報告 ／提案するとして DG を閉会した。

(6) 今後の課題：

- ・ 今会合で作成した SG4 議長宛のノートは、SG4 における勧告案の品質を向上するためのものとしており、SG4 内での承認プロセスを妨げないと想定され、勧告案におけるさらなる課題は特に無いと考えられる。
- ・ 既存の IMT と FSS の共用検討レポート(M.2109)の作成には日本が WRC-07 に向けて積極的に貢献したものであり、今後、WP5D で作成するとした干渉回避技術に関する勧告草案の作成においても、積極的に貢献する必要がある。ただし、ワークプランでは 2010 年 10 月の WP5D 第 9 回会合を完成時期としており、作業期間も考慮しながらスコープや内容を検討する必要がある。

5. 3. 2 SWG FREQUENCY ARRANGEMENTS

(1) 議長：Mr. Y. Zhu（中）、副議長：Ms. A. Sanders（米）

(2) 主要メンバー：米、加、英、仏、独、露、スウェーデン、フィンランド、中、韓、印、イラン、ニュージーランド、クアルコム、エリクソン、パナソニック、橋本、小松、広池、菅田、北、新、全 60 名程度

(3) 入力文書：Doc.5D/531（仏、CEPT）、538（米）、541（加）、547（日）、549（露）、550（独）、551（独）、553（UMTS-F）、554（UMTS-F）、557（WiMAX-F）、562（韓）、571（印）、573（フィリピン）、584（中）、585（中）

(4) 出力文書：Doc.5D/TEMP

271 [IMT.700]の作業文書

273 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改定案作成の作業計画

274 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改定案作成のための作業文書

275 SWG Frequency Arrangements 議長報告

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

WRC-07 において新たな周波数が IMT に特定されるとともに、既存 IMT-2000 帯域も IMT に特定し直されたことにより、周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 を改定することが WP5D 第 1 回会合で合意され、勧告改定の作業が実施されている。前回会合に引き続き、Y. Zhu 氏（中）が SWG 議長、A. Sanders 女史（米）が SWG 副議長に任命された。

今回の WP5D 会合では、SWG Frequency Arrangements は、合計 5 ピリオド開催され、

- ① 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 改定案作成のための作業文書の更新
- ② M.1036-3 改定案作成の作業計画の見直し
- ③ 作業文書[IMT.700]の更新

についての議論が行われた。なお 5 ピリオドのうち、3 ピリオドは M.1036-3 の作業文書更新のドラフティングセッションに割り当てられた。

また、作業文書 [IMT.700]の作業については、ドラフティンググループ (DG) を設置し、DG 議長として J.Costa 氏（加）が任命された。

(5-2) 審議概要と主要結果

① 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 改定案作成のための作業文書の更新

関連入力文書として、14 件の入力があった。基本的に作業文書に対する修正提案を行っており、SWG 副議長が各修正提案をマージした作業文書を用意して、それに基づいて議論が行われた。以下、各項目で行われた主な議論を以下にまとめる。

- 勧告本体部分 (main body) の議論

(1章 Introduction)

- ・ 文書 5D/550 (独) の提案により、IMT-2000 の不要発射レベルをまとめた勧告 M.1580、M.1581 に言及する記載が追加された。
- ・ 文書 5D/547 (日) の提案により、IMT への特定に関する脚注をまとめた表から、HAPS 関連の脚注が削除された。
- ・ 文書 5D/550 (独) の提案に基づき、主管庁が IMT を導入する際の周波数に関する記載が修正された。

(2章 Scope)

文書 5D/550 (独) の提案により、勧告 M.1580、M.1581 に言及する記載が追加された。

(4章 Related Recommendations and Reports)

- ・ 文書 5D/538 (米) の提案により、レポート M.2113 が追加された。
- ・ インドより口頭で、PPDR に関する決議 646 (WRC-03) をリストに追加する提案があったが、他アプリケーションに関する決議を加えることの妥当性や、他の IMT 関連の決議を加える対応が必要となる点から、採用されなかった。

(新5章 Recognitions)

- ・ 文書 5D/541 (加) の提案により、PPDR に関する決議 646 (WRC-03) に関する記載を、Annex 2 (698-960MHz 帯) の NOTE に追記する提案があったが、イランが WRC の決議を ITU-R 勧告の NOTE の位置づけで記載するのは不相当との意見が述べられたため、勧告本体の Recognitions として記載をすることにした。なおイランからの意見により、5章 Recognitions and considerations の構成を、新5章 Recognitions、新6章 General considerations に分割した。

(新6章 General considerations)

- ・ 文書 5D/547 (日) の提案により、Report の名称だけを言及している considerations については削除することにした。
- ・ 周波数利用効率を向上させる方策としてコグニティブ無線を例示する点については、文書 5D/538 (独) により [] を外す提案が行われ、特段反対なく合意した。
- ・ 文書 5D/547 (日) の提案により、FDD の場合の上下の周波数間隔に関する記述について、独、インド、ニュージーランド等の意見を踏まえて、修正が行われた。
- ・ FDD と TDD を小さい帯域幅に同時に收容する場合の問題点を記載した consideration の取り扱いは結論が出ず、[] 付のまま、次回会合で改めて議論することにした。

(6.2章 Traffic asymmetry implications)

- ・ 文書 5D/550 (独) の提案により、不確定な情報を含む一部の文章を削除した。

(新6.4bis章 Dual duplexer)

- ・ 文書 5D/571 (印) において Dual duplexer について言及する提案を行われていたが、ニュージーランドが新しい技術の考え方として Recommendations の章に加えるべきとの意見が出され、新たに 6.4bis 章が作成され、Dual duplexer に関する記載が追加された。
- 各 Annex に共通する議論
 - ・ Flexible FDD/TDD の周波数アレンジメントの取り扱いに関連し、前回会合より継続議論となり [] 付で作業文書に盛り込まれている、"Notwithstanding the recommended frequency arrangements, administrations may take any action (including the use of other combinations of FDD and/or TDD) to fulfil their requirements." の NOTE の追加については、UMTS-F を始めとして独、中、ノートルが削除を提案したが、米、英が強く反対し合意は得られなかった。各 Annex について、[] 付のまま次回会合で改めて議論することにした。

- ・ 各 Annex の表の構成を統一する議論については、必ずしも全ての Annex の構成を統一することはなく、必要最小限の修正を行うことにし、Paired arrangements、Un-paired arrangements の記載を行うことにした。
- Annex (698-860MHz の周波数アレンジメント) の議論
 - ・ 文書 5D/531 (仏、CEPT) により、CEPT の周波数アレンジメントの[]が外され、付随する NOTE2 を一部修正して、作業文書に盛り込まれた。
 - ・ 文書 5D/585 (中) により、中国提案の周波数アレンジメント A5 が修正され、作業文書に盛り込まれた。また、文書 5D/571 (印) により、インド提案の周波数アレンジメント A6 及び A7 の 2 種類 (FDD、及び TDD の場合) が、作業文書に盛り込まれた。なお、これらの周波数アレンジメントについては、AWF にて検討中との Editor's Note が付加された。
 - ・ 文書 5D/538 (米) の提案により、米国提案の周波数アレンジメント A4 に付随する NOTE4 が追加された。
 - ・ 文書 5D/541 (加)、571 (印) からの提案により、PPDR に関する NOTE の追加が検討され、NOTE5 が追加された。
- Annex 4 (2300-2400MHz の周波数アレンジメント) の議論
 - ・ 作業文書に E2 として記載されている Flexible FDD/TDD の削除を、UMTS-F、中、独が主張したが、米、英、WiMAX-F が強く反対した。
 - ・ ニュージーランド (WG SPEC 議長) より、本件解決のためには、さらなる寄与文書の入力を待って両者が妥協できる点を探るべき、いくつかの記載部分がお互いに関係しており総合的にみて解決が必要であるとコメントが行われ、次回会合で改めて議論することにした。
- Annex 5 (2500-2690MHz の周波数アレンジメント) の議論
 - ・ UMTS-F より既存の C3 の Flexible FDD/TDD を削除を含む修正提案が行われたが、米、英、ニュージーランド、インド、コロンビア、インテル等が反対し、修正は行わないことにした。
- Annex 6 (3400-3600MHz の周波数アレンジメント) の議論
 - ・ 具体的な周波数アレンジメントを記載するプレースホルダーとして、表のフォーマットが挿入された。
 - ・ 文書 5D/547 (日) により、技術的検討部分の記載を簡単化する提案が行われ、特段コメントなく、作業文書への修正を行った。

② M.1036-3 改定案作成の作業計画の見直し

前回会合で作成した作業計画に対して、本質的な修正は行われず、一部エディトリアルな修正のみを行った。したがって勧告改定案の完成目標時期は、引き続き第 10 回会合 (2011 年 2 月) のままである。

③ 作業文書[IMT.700]の取り扱い

ドラフティンググループで審議された作業文書が示され、一部エディトリアルな修正を行った後、キャリアフォワードして次回会合で引き続き議論を行うことにした。

なお、イランからは[IMT.700]の作業の取り扱いについていつ判断するのかを決めなければいけないとコメントがあった。SWG 議長からは、[IMT.700]の取り扱いについて意見を求める入力文書を募ることを SWG の議長報告に記載すると回答が行われた。

(6) 今後の課題：

- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改定、及び作業文書[IMT.700]については、我が国では 3400-3600MHz 帯、及び 698-806MHz 帯の一部を IMT に使用予定であることを踏まえ、引き続き、適切に対処していく必要がある。

- ・ 勧告 M.1036-3-3 の改定の作業に対しては、3400-3600MHz 帯の周波数アレンジメントのより具体的な提案等を含め、次会合以降も継続的な対応が必要である。
- ・ 作業文書[IMT.700]については、目的の明確化を求める意見が複数の国（米、英、仏、露、等）から出されている点、作業文書には日本からの提案テキスト（700/900MHz 帯をペアリングにした周波数アレンジメントの考え方）が含まれている点等を踏まえ、対処を検討していく必要がある。

5. 3. 2. 1 DG IMT.700

(1) 議長： Dr. J.Costa（加）

(2) 主要メンバー： 米、加、英、仏、独、露、スウェーデン、フィンランド、中、韓、印、イラン、ニュージーランド、ケルコム、エリクソン、パナソニック、橋本、小松、広池、菅田、北、新、全 60 名程度

(3) 入力文書： Doc.5D/541（加）、549（露）、562（韓）、573（テレストラ）

(4) 出力文書： Doc.5D/TEMP
271 [IMT.700]の作業文書

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

作業文書[IMT.700]の更新を実施するため設置された。DG 議長は、J.Costa 氏（加）を務めた。本会合中には、1 ピリオド開催された。

(5-2) 審議概要と主要結果

既存の作業文書（文書 Doc. 5D/413、Att.5.4）に、今回の会合への関連入力文書の内容をマージした作業文書が DG 議長から準備され、内容の審議を行った。主な議論は下記の通りである。

（スコープ）

- ・ イランからの指摘により、一部修正を行った。

（3 章 References）

- ・ APT、及び CEPT の関連レポートの追加が合意された。

（4.3 章 Other applications in the band）

- ・ 文書 5D/541（加）の提案に基づき、PPDR に関する記述が、特段コメントなく追加された。

（4.4 章 Operational deployment considerations）

- ・ 文書 5D/573（テレストラ）の提案に基づき、この帯域で IMT を展開する場合の利点等に関する記載が、特段コメントなく追加された。

（5.3 章 Other sharing studies）

- ・ 文書 5D/573（テレストラ）の提案に基づき、AWF で検討が行われている旨の簡単な記載が、特段コメントなく追加された。

（5.4 章 Other technical considerations）

- ・ 文書 5D/573（テレストラ）の提案に基づき、AWF で検討が行われている技術検討項目のサマリーが、特段コメントなく追加された。

また、文書 5D/549（露）に基づく、作業文書[IMT.700]のスクールの拡大、及び一つの方向性としてハンドブックとして作成をすとの提案について、議論が行われた。主な議論は以下の通りである。

- ・ 露は、提案の背景として、この周波数帯では、各地域で独自の周波数アレンジメントが提案されており、グローバルでのハーモナイズは難しい。したがって、この帯域の使い方に関する内容を取りまとめた文書にす

るとの意図を説明。

- ・ 米は、作業文書の目的が不明、及び価値が明確でないと作業継続に対する反対のコメントがあり、英国、インテルが米国の意見を支持。
- ・ また、仏、スウェーデンも作業文書のスコープの明確が必要との意見。
- ・ DG 議長は、今回の会合に入力文書があった点を指摘し、いずれにしても作業は継続する必要があるとして、今後の方向性について Editor' s Note を記載して、入力文書を募る対応を提案。

最終的には、DG 議長の Editor's Note を利用して、本作業文書の取り扱い（中止、ITU-R レポートとして作成、その他の文書として作成等）等について、入力を募って、継続議論することにして、更新した作業文書をキャリアフォワードすることにした。なお、ニュージーランド、米、仏の意見により、今回会合で修正を行った部分の履歴を残して、キャリアフォワードすることにした。

(6) 今後の課題：

- ・ 作業文書[IMT.700]については、目的の明確化を求める意見が複数の国（米、英、仏、露、等）から出されている点、作業文書には日本からの提案テキスト（700/900MHz 帯をペアリングにした周波数アレンジメントの考え方）が含まれている点等を踏まえ、対処を検討していく必要がある。

5. 4 WG DEVELOPING ASPECTS

(1) 議長： Javier Camargo (メキシコ)

(2) 主要メンバー： メキシコ、コロンビア、米国、中国、韓国、鬼頭、小林 全 13 名程度

(3) 入力文書： 5D/536(ITU-T SG13)、5D/537(ITU-T SG13)

(4) 出力文書：

5D/TEMP/253 (ITU-T SG 13 および写し ITU-D SG 2 議長、ITU-R SG 5 議長)

5D/TEMP/252r1 (議長報告)

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

WG DEV は発展途上国の立場から IMT-2000 及びそれ以降のシステム及びサービスについて審議することが所掌である。WG-DEV は会期中に 2 回開催された。

(5-2) 審議概要と主要結果

- ・ 入力文書 5D/536

ITU-T Study Group 13 (Q.15/13) から発出された「APPLICATION OF IMT AND IMS IN MOBILE NETWORKS IN DEVELOPING COUNTRIES」について討議。本文書は途上国での IMT および IMS の採用状況に関する Questionnaire である。第 1 回目の会合 (10/16) 後 TEMP ドキュメント 5D/TEMP/253 が作成された。内容は「WP5D では質問内容に対して助言・コメントは用意できない」とするものであったが、これに対してカナダから修正コメントが寄せられ、急遽 10/21 に第 2 回目の会合が行なわれ修正案を作成した。修正案では、WP5D と ITU-D Q.18-1/2 が過去に共同して作成した文書をいくつか挙げ、質問表を作成するに当たりこれらの文書の内容を考慮することを勧めている。また初期の段階で ITU-T も含めた 3 者で「Handbook on Deployment of IMT-2000 systems」という文書を作成したことも述べている。

- ・ 入力文書 5D/537

ITU-T Study Group 13 から発出された Q.15/13 「ACKNOWLEDGMENT OF INFORMATION ON THE UPDATE OF ITU HANDBOOK SUPPLEMENT ON MIGRATION TO IMT-2000」についての説明があった。

本文書は WP5D が ITU-D Q.18-1/2 のラポーターの求めに応じて、途上国が既存の mobile network から IMT-2000 へ移行するためのガイドライン(GST:Guidelines on the Smooth Transition)のサプリメント作成したことに対する Q.15/13 からの謝意と、Q.15/13 は自身の作業を進めるに当りこのハンドブックを参照するであろうとの連絡である。

- (6) 今後の課題：
特になし。

5. 5 AH WORKPLAN

- (1) 議長：Hakan OHLSEN（スウェーデン）
- (2) 主要メンバー：S.Blust（WP8F 議長）、A. JAMIESON（WG-SPEC 議長）、S.Lixin（WG-TECH 議長）、M.Grant（SWG-Radio Aspect 議長）、H. WANG（SWG-WVAL 議長）、N. P. Magnani（SWG-1457 議長）、U. LÖWENSTEIN（SWG-1580/1581 議長）、J.Costa（加）、S.Green（UK）、H. Seong（WG-GENE 議長代行）、R. AREFI（米/インテル）他、坂中団長、橋本、本多、白石、林、佐藤（一）他、合計約 40 名

- (3) 入力文書：

5D/539（米国）Comments on the update process for IMT Advanced.

5D/548（日中韓）Proposal of actions for IMT-Advanced development at the 6th WP 5D Meeting.

5D/586（議長副議長）Plan for IMT-Advanced work inside and outside of ITU-R during the period October 2009 to October 2010.

5D/587（議長副議長）WP 5D method of work for IMT Advanced in October 2009 Meeting.

5D/526 WP5D 議長報告際 2 章「ITU-R WP 5D Structure and Workplan」

- (4) 出力文書：

5D/TEMP/285R1（AH WORKPLAN の会合報告）

5D/TEMP/276（WP5D 議長報告 第 2 章「構成とワークプラン」の最新化版）

- (5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

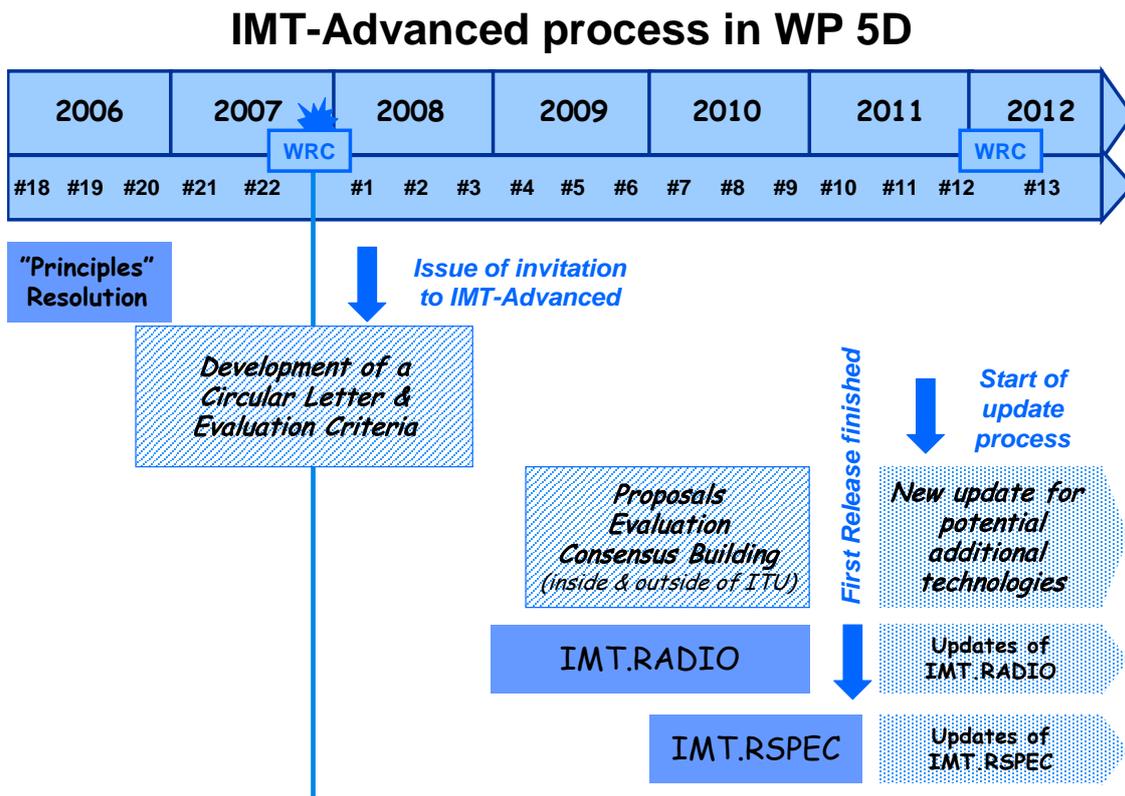
中長期的作業計画に従って活動する必要があるとされた経緯から、毎回会合ごとに Living Document として各作業グループ間の相互に関連ある作業計画等の調整作業を行うこと、また、WP5D 全体のワークプランを最新化して維持管理している。結果を WP5D 議長報告の第 2 章として添付している。

(5-2) 審議経過

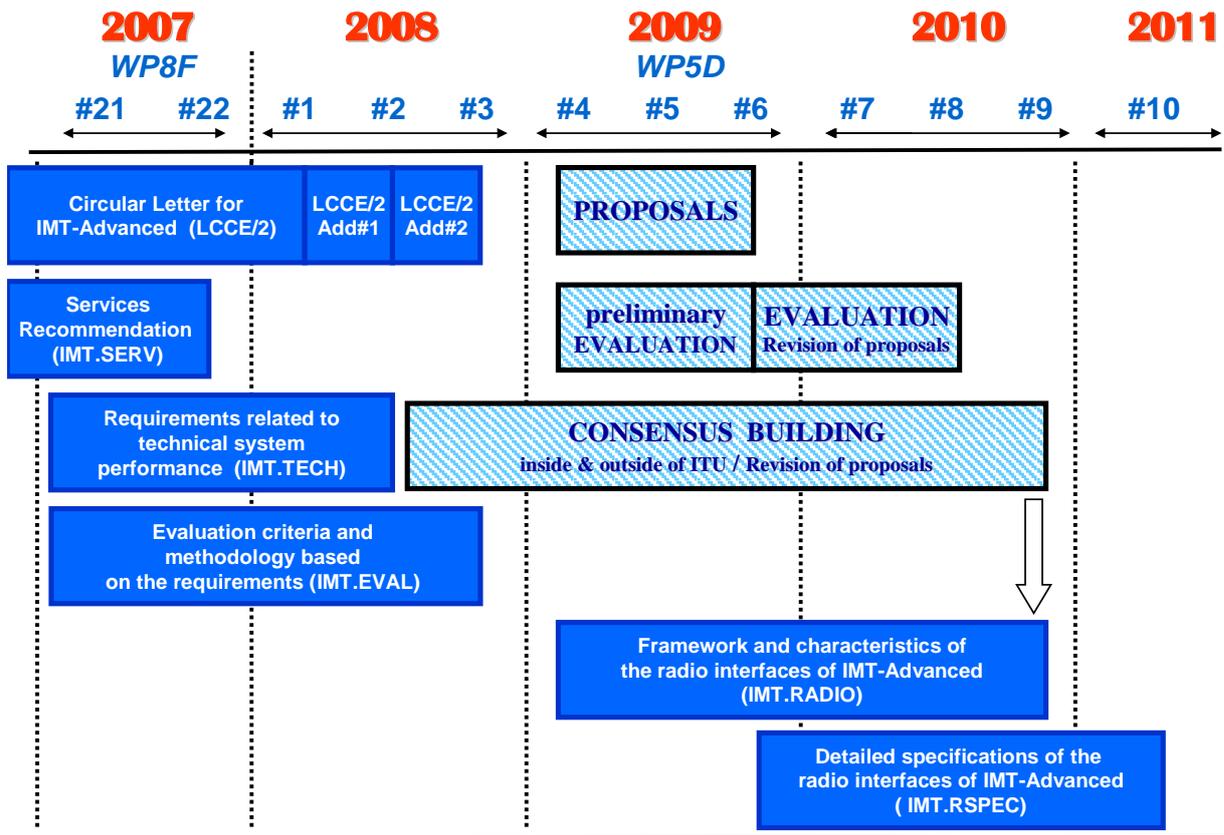
- ・ 今回会合では、AH-WORKPLAN は 2 回開催された。
- ・ 前回 WP5D 第 5 回ジュネーブ会合の議長報告（Doc. 5D/526）の第 2 章を最新化する作業が、次に様に行われた。
- スケジュール自体は現状を維持すること。
- 各ステップの Completeness を完了すべき作業と関係付けて明確化すること（主に議長提案 5D/586 による）。
- IMT-Advanced の無線インタフェース勧告草案[IMT.RSPEC]に対して第 2 ラウンド以降に向けた選定プロセスへのアップデートについて、検討課題のアイテムに追加すること（米国提案 5D/539 による）。
- 第 2 章ワークプラン全体を最新化すること。

- (i) スケジュール自体は現状を維持する件（アタッチメント 2.11 の項）。
- ・ 下記のアタッチメント 2.11(Schedule for the IMT-Advanced process)は、特に、異論は無く了承された。
 - ・ 下記の図 2 の[IMT-RADIO]の箱では、そのスコープが SWG-Radio Aspects での議論の結果、日中韓の提案が受け入れられて記録とすることで明確化が図られたので、Ikey characteristics の key の文言を削除した。

① 図 1 IMT-Advanced の暫定全体タイムスケジュール(Preliminary overall time schedule for the IMT-Advanced process)



② 図 2 IMT-Advanced の IMT.RADIO 及び IMT.RSPEC 開発に向けた関係回章及び関係プロセスの開発関連詳細スケジュール (Detailed schedule for development of Circular Letter for IMT-Advanced and the process leading to the development of IMT.RADIO and IMT.RSPEC)



- (ii) 各ステップの Completeness を完了すべき作業と関係付けて明確化すること（アタッチメント2. 8の項）。
- ・ 主に議長提案 5D/586 で提案された各作業アイテムを 5D/526 第2章ワークプランのアタッチメント2. 8に具体的に盛り込む作業が行われ、ほぼ提案通りに了承された。
 - ・ 各ステップの Completeness（完了）はメリハリを付けて明確にすることとし、アタッチメント2.8(Agreed overall deliverables/work plan of WP 5D)に会合毎の SWG レベルの作業内容及び成果物を比較的細かく盛り込んだ。また、標準化プロセスの下記ステップの完了を示す成果物を明確化した。
 - ・ ステップ3の完了は5D/548を元に SWG Coordination での確認作業と acknowledgement の発出をもって今回会合で終える。
 - ・ ステップ4から7までは、第9回会合での[IMT.RADIO]の完成を持って完了とするとした。
 - ・ そのために要求される評価及びコンセンサス形成フェーズに関連した第6回会合から第9回会合までに要求される作業について、ハイレベルビューを会合毎に記述した表を追加した。
- (iii) IMT-Advanced の無線インタフェース勧告草案[IMT.RSPEC]に対する改定プロセス、及び、今後の第2ラウンドに向けて選定プロセスをアップデートすることについて検討すべきアイテムとして追加する件（アタッチメント2. 11に追記）。
- ・ 米国提案 5D/539 によるテキストがアタッチメント2. 11の最後に追記され、審議が行われたが特に意見も無かった。
 - ・ 内容としては、第8回会合で議論をスタートさせて第10回会合で結論付けることが必要と述べている。また、その検討に当たって考慮に入れる事項として下記を述べている。
 - ・ 現状の IMT-Advanced 無線インタフェース技術の改定プロセス
 - ・ IMT-Advanced に新たな無線インタフェース技術を導入するプロセス

- IMT-Advanced ドキュメント M.2133、M.2134 及び M.2135 のアップデート、変更、或いはエンハンスメント

(iv) その他の WP5D のワークプラン (Doc. 5D) の会合毎の見直し及び最新化 :

- ① アタッチメント (以降 Att.と略記) 2.2 「Working Party 5D structure」で、フランスから、WG-DEV 作業を WG-GENE に移管して WG-DEV を閉めることが指摘され、最終日の WP5D プレナリーの結果をまとめて反映される。
- ② Att. 2.6 「Meeting schedule」では、次回第 7 回会合の開催地は、最終日の WP5D プレナリーでイタリアが招聘した。また、第 10 回会合は 2011 年 3 月 9-16 日と通常の 2 月ではないと注意喚起が行われた。
- ③ Att. 2.9 「” Detailed work plans” for individual deliverables」は、全て現状のままとし、各 WG の進捗を反映する。
- ④ Att.11 の新たに追加した Step7 のコンセンサスビルディングで[IMT.RADIO]と[]がついて記してあることに質問があり、IMT.RADIO で良いか否かは SWG-Radio Aspects の結果を反映した。
 - ・ この会合でのワークショップの内容を URL でオープンにしていることを追記した。
 - ・ 外部の評価グループ間で情報交換を行うことについては SWG Coordination の結果を待ち、最終日の WP5D プレナリーで決められた。
 - ・ 第 9 回会合で、WG-TECH の作業として Final decision on framework and characteristics of IMT-Advanced RITs and SRITs と表現があったが、ステップ 7 の完了の承認は WP5D であるとして WG-TECH から WP5D の作業とした。また、framework and characteristics of はもっと前の会合から作業に着手することであり、ステップ 7 ではないとした意見があつて、このテキストを削除し、Final decision on IMT-Advanced 云々と修正した。
- ⑤ Att.12 では、IMT.RADIO の欄では第 1 カラム「Deliverables」から key が削除された。また、コメント欄では record との文言を挿入して CJK 提案通りに性格付けが行われた。最終的には SWG Raio Aspects の結果、そのように反映した。

(5-3) 審議結果

- ・ スケジュール自体は現状を維持することが確認された。
- ・ 各ステップの Completeness を完了すべき作業と関係付け、明確化された。
- ・ IMT-Advanced の無線インタフェース技術勧告草案[IMT.RSPEC]の今後の改定プロセスの検討、また、新規提案技術に対する第 2 ラウンド以降に向けた選定プロセスのアップデートについては、第 8 回会合から議論をスタートさせて第 10 回会合で結論付ける必要があるされ、その議論で考慮すべきアイテムを列記した。
- ・ WP5D 議長報告第 2 章のワークプランが最新化された。
- ・ 次回の WP5D 第 7 回会合はイタリアから招聘が行われた。

(5-4) 今後の課題

- ・ 会合毎にスケジュールをフォローし、2011 年 2 月頃の WP5D 第 10 回会合で「IMT.RSPEC」の第 1 版を出すスケジュールを維持すること。

5. 6 AH VOCABULARY

Ad Hoc Vocabulary は、今会期中に会議は開催されなかった。Ad Hoc Vocabulary 議長とオフラインで話をしたところ今回の第 6 回会合では開催せず、第 7 回以降で開催とのことであった。

6. Region 3非公式会合

- (1) 議長：佐藤(日本)
- (2) 主要メンバー：Y.Wan、L.Wang、H.Wang、H.Lin、Y.Li(中国)、H.Seong、D.J.Kim、J.Song、E.Lim、H.Lee、J.Oh(韓国)、坂中、白石、広池(日本)、D.Kershaw、A.Jamieson(ニュージーランド)、N.Q.Mai(ベトナム)、K.Arasteh(イラン)、J.Lewis (AWF)

(3) 入力文書：5D/594(リージョン3レポート) Activities related to IMT-2000 and IMT-Advanced in Region 3

(4) 審議概要：

Region 3 参加国から、各国での IMT 等の移動通信システムの検討・導入状況ならびに本 WP5D 会合における関心事項について情報を提供してもらい、それについての質疑応答をする形で議事を進めた。各国の状況及び関心事項等は以下のとおりである。

①中国：

- 2009年1月に3Gのライセンスがオペレータ3社に交付され各オペレータは順次商用サービスを開始した。それぞれエリア展開を進めている。
- チャイナモバイルと政府はTD-LTE実験を今後強力に推進する。試験は3つのフェーズからなり、Phase1としてのProof of conceptは終了したところであり、Phase2のR&D技術実験は今月開始された。来年後半にPhase3のScaledトライアルが始まる予定。全てのフィールドテストは2.3-2.4GHz帯を使用する。
- 今会合ではTD-LTE-Advancedを提案した。また、周波数アレンジメントにも関心があり、UHF帯に関する入力を前回に続いて今回も行った。TDDにフォーカスしている。

②日本：

- 携帯電話の加入者数は9月時点で約1.09億でそのうちの約95%が3Gのユーザである。
- オペレータは2Gのサービスを2012年3月までに終了する予定である。2Gサービスの停止はオペレータの判断によるが、政府としては新サービスの導入のために早期の停止を勧めている。
- 本年6月にLTE(3.9G世代システム)の導入のために既存4オペレータに新周波数を割り当てた。DCMは2010年12月に2GHz帯でLTEの商用サービスを開始し、その後1.5GHz帯にLTEを導入する予定である。
- BWAについてはUQコムがモバイルWiMAXの商用サービスを7月に開始した。9月末時点で2.1万加入。またウィルコムはXGPの商用サービスを今月開始した。両方式とも2.5GHz帯を使用している。またカバレッジの改善のために小電力リピータを導入していく予定である。
- 今回、2つの方式をIMT-Advancedの無線インタフェース候補技術として提案した。今後はコーディネーション活動と評価プロセスに関心がある。

③韓国：

- 2012年末までに実施されるアナログ→デジタルTVの以降に伴い、698-806MHz帯の将来的利用についてのサーベイを年内に行いパブリックビューを集める。バンドプランについてはRegion3においてハーモナイズした利用を目指し、WP5DやAWFでの検討結果を基にして最終的に決定される予定である。
- Radiocommunication Expo 2009が7/30-8/1に釜山で開かれた。無線通信の重要性をアピールすることが目的であった。
- 欧州と韓国のジョイントでのCRとSDRに関するワークショップが10/7-8にソウルで開催された。R&D、ビジネスモデル、標準化活動がテーマであった。
- TTAは第2回IMT-Advanced standardization workshopを第22回CJK-B3GWG会合の後の9/11に開催した。約150人が参加した。オペレータ、メーカーからIMT-Advancedの標準化活動、将来のアプリケーションに関するビューについてのプレゼンが行われた。

- TTA は IMT-Advanced の無線インタフェース候補技術として IEEE802.16m をベースとした提案を行った。
- Region3 各国間の協力が大事であり、興味がある。

④ニュージーランド :

- 2つの既存オペレータは3G (HSPA) を運用中である。Telecom New Zealand は 850MHz 帯を用いて全国において2009年5月にサービスを開始した。Vodafone New Zealand は HSPA を 900 MHz 帯 と 2100 MHz 帯で運用している。第3オペレータも最近 HSPA を 900 MHz 帯 と 1800 MHz 帯で開始した。
- 数ヶ月前に政府はデジタルディビデンドに関するパブリックコンサルテーションとして paper を発行した。今年末にレポートが政府に提出され方針決定がなされる予定である。
- 周波数アレンジメントに関心がある。米国スタイルのバンドプランに関心がある。

⑤ベトナム :

- 2009年9月に MIC は 4つの3G ライセンス(2GHz 帯)を出した。最初の3G ネットワークは今年運用が開始されたばかりで、他の2オペレータは来年の1Q、最後のオペレータは来年4Qまでに運用開始予定である。
- UHF 帯について、790-806MHz で運用する放送局の開設を禁止するように National Frequency Allocation Table を改訂した。
- 追加の IMT バンドとして、MIC は 2.3GHz 帯(TDD) と 2.5GHz 帯(TDD/FDD) のバンドプランを検討中である。

⑥マレーシア :

- 3G については4オペレータが2GHz 帯に IMT (HSDPA) を入れて商用サービス中である。また、2.3GHz 帯で BWA として MobileWimax も展開中である。
- Malaysian Communication and Multimedia Commission (SKMM) は産業界と共同で IMT への 800M、900M、1.7G、1.8G の割り当てについて検討中である。年内に作業は完了する予定である。
- 2.3GHz 帯について、SKMM は効率的利用のための追加的な要求条件を加えた Standard Radio System Plan (SRSP) document を作成した。

⑦イラン :

- 事情により WP5D の全ての会合に出席することはできない。
- イランには TIC という通信のインフラ会社がある。またオーソリティとして CRA がある。
- IMT については準備段階で、注意深く監視している状態。リソースが限られているのでリスクが怖い。
- UHF バンドについて AWF で検討していることは知っている。放送から移動への移行は重要である。
- JTG5-6 のドキュメント 95、96 を見て欲しい。

⑧AWF :

- 3週間前にプーケットで会合を行った。UHF デジタルディビデンドのレポートを作成した。WP5D メンバが参照できるようにサーバー (Share Holder) に格納している。また、2.3-2.4GHz 帯のアレンジメント議論等も行っている。

また、Region 3 各国間での協力エリアを模索・特定する目的で意見交換を行った。出席メンバからの主な意見は以下の通りであった。

- デジタルディビデンドの UHF バンドについて、APT 各国でハーモナイズしたい。(韓国)
- まずは、AWF 作成のレポートを読んで欲しい。今会合中に意見交換を希望するなら適当な担当者にコンタクトして欲しい。(議長)

7. 今後の予定等

7. 1 WP5D 及び関連会合の今後の開催予定

WP5D 及び関連の会合の今後の予定は以下のとおりである。

[WP5D の開催予定]

・ WP5D 第 7 回会合	イタリア（トリノ）	2010.2.17	－	2010.2.24
・ WP5D 第 8 回会合	ベトナム	2010.6.9	－	2010.6.16
・ WP5D 第 9 回会合	中国（予定）	2010.10.13	－	2010.10.20

[関連する会合の開催予定（日程は ITU の Web から抜粋）]

・ WP5A	スイス（ジュネーブ）	2010.5.10	－	2010.5.21
・ WP5A	スイス（ジュネーブ）	2010.11.8	－	2010.11.19
・ SG5	スイス（ジュネーブ）	2010.11.22	－	2010.11.23

7. 2 次会合に向けての日本のアクション事項

7. 2. 1 WG GENERAL ASPECTS 関係

- ・ 現時点では、特に検討すべき案件はないため、静観とする。WG-GEN 会合での審議動向を注視し、議題の審議が効果的に進められるよう現地にて対応する。
- ・ なお、次回の WG-GEN 会合に新たな案件として入力される寄書については、日本にとって不利益とならないよう、必要に応じて現地にて対応する。

7. 2. 2 WG TECHNOLOGY ASPECTS 関係

- ・ 勧告 M.1457 に関しては特に必要事項はない。
- ・ 勧告 M.1580/M.1581 に関しては特に必要事項はない。
- ・ IMT.RADIO に関しては特に必要事項はない。
- ・ CRS に関しては必要であれば次回会合の寄書入力を検討する。
- ・ IMT-Advanced の無線インタフェースに関しては、会合間の討議用に設置された CG に対して、日本は提案者として CG の IEEE Technology, 3GPP Technology 双方の Topic への参加を行う必要がある。ARIB は提案者として 3GPP Technology の Topic へ、評価 Group (AEG)として全ての Topic に参加する必要がある。CG における発言者の人数は限られているため、国内、ARIB 内で各々の代表者の選定を行うことから開始する必要がある。

7. 2. 3 WG SPECTRUM ASPECTS 関係

- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改定、及び作業文書[IMT.700]については、我が国では 3400-3600MHz 帯、及び 698-806MHz 帯の一部を IMT に使用予定であることを踏まえ、引き続き、適切に対処していく必要がある。
- ・ 勧告 M.1036-3-3 の改定の作業に対しては、3400-3600MHz 帯の周波数アレンジメントのより具体的な提案等を含め、次会合以降も継続的な対応が必要である。
- ・ 作業文書[IMT.700]については、目的の明確化を求める意見が複数の国（米、英、仏、露、等）から出されている点、作業文書には日本からの提案テキスト（700/900MHz 帯をペアリングにした周波数アレンジメントの考え方が含まれている点等を踏まえ、対処を検討していく必要がある。
- ・ 共用検討に関連し、新勧告案[IMT-Mitigation]の作成、レポート M.2039 の改定、新レポート案[ANT ISO]の作成の作業が、今後本格化すると想定され、我が国にとって不利となる拙速な結論が導かれないよう注視していく必要がある。

- ・ 新勧告案[IMT-Mitigation]の作成については、レポート M.2109 の干渉軽減技術の章に基づいて議論が行われるが、当該章には我が国が貢献した内容が多数含まれており、新勧告案の作成にあたっても積極的な対処を検討していく必要がある。

付属資料1 参加国・機関と寄与文書数

参加国	参加者数	寄与文書数
オーストラリア	1	
カナダ	7	2
中国	9	5(再掲2)
コロンビア	1	1
エジプト	3	
フィンランド	1	
フランス	7	5
ドイツ	15	4
ハンガリー	1	
インド	4	1
イラン	1	
イラク	5	
イスラエル	1	
イタリア	2	
日本	22	7
韓国	15	4(再掲2)
マレーシア	1	
メキシコ	1	
モンテネグロ	2	
モロッコ	1	
ニュージーランド	2	
ロシア	4	1
サウジアラビア	5	
セルビア	1	
スウェーデン	2	1
スイス	1	
シリア	2	
タンザニア	1	
ウガンダ	1	
英国	5	
米国	12	2
ベトナム	4	
ジンバブエ	1	
小計	141	29

参加機関	参加者数	寄与文書数
China Mobile	4	
ドイツテレコム	1	
E-Plus Mobilfunk	1	
O2 Germany	1	
テレコムイタリア	3	
NTT ドコモ	2	
Saudi Telecom	1	
Telefonica, S.A.	1	
テリアソネラ (スウェーデン)	1	
AT&T	1	
Free TV Australia	1	
ノーテル	1	
アルカテルルーセント上海ベル	1	
大唐テレコム	3	
Huawei	6	1
ZTE	3	2(再掲 1)
ノキア	2	1
アルカテルルーセント (フランス)	1	
Rohde & Schwarz	1	
NEC	1	
ETRI	2	
サムスン	5	
Telefon AB –LM Ericsson	8	1(再掲 1)
アルカテルルーセント(米国)	3	
インテル (米国)	6	
モトローラ (米国)	2	
Qualcomm	3	1
European Communications Office	1	
IEEE	3	3
UMTS Forum		2
WiMAX Forum	2	7
ETSI	2	2
Ericsson Canada	1	
Alvarion Ltd.	1	
Clearwire, Inc.	1	
N.I. Lobachevsky State University	1	
Telstra Corporation Ltd.		1
Radiocommunication Bureau	1	
ATIS		3
BR Study Group Department Chairman, CCV		
Chairman ITU-T Focus Group on FN		1
Chairman, ITU-T SG 13		
Chairman, SG 5		1
Chairman, WP5D		2
Chairman & Vice Chairmen WP5D		2

Director, BR		9
GSM Association		
ITU-D SG2		
ITU-R SG4		1
ITU-R SG5		
ITU-T SG2		2
ITU-T SG5		
ITU-T SG13		2
ITU-T SG15		1
Region 1(CEPT) Rapporteur		1
Region 3 Rapporteur		1
WP1A		1
WP 4A		1
WP 4C		1
WP1B		1
WP 3M		1
WP5D		1
Alcatel-Lucent France, Alcatel-Lucent USA Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, AT&T Inc., British Telecommunications Public Ltd. Co, China Mobile Communications,Corporation,, China Telecommunications Corporation, China Unicom (Hong Kong) Limited, DaTang Telecommunication Technology& Industry Holding Co., Ltd, eMobile Ltd, Electronics and Telecommunications Research Institute (ETRI), Telefon AB-LM Ericsson, Fujitsu Limited, Hitachi Ltd., Huawei Technologies Co. Ltd, Japan Radio Co., KDDI Corporation, LG Electronics Inc., KT Corporation, LGTeleCom Ltd., Mitsubishi Electric Corporation, Motorola Inc., NEC Corporation, Nippon Telegraph and Telephone Corporation(NTT), Nokia Corporation, Nokia Siemens Networks GmbH & Co KG, NTT DoCoMo Inc., OKI Electric Industry Company Ltd., Panasonic Corporation, Qualcomm Inc., Samsung Electronics Co. Ltd, Sharp Corporation, SK Telecom, SOFTBANK MOBILE Corp., Telecom Italia S.p.A., Toshiba Corporation, ZTE Corporation Mobile Ltd(共同寄書)		1

Alcatel-Lucent France, Alvarion Ltd, British Telecommunications Public Ltd. Co.(BT Plc), Cisco Systems Inc., Clearwire Inc., Electronics and Telecom. Research Inst. (ETRI), Fujitsu Limited, Hitachi Ltd., Industrial Technology Research Inst. Inc. (ITRI), Intel Corporation, Inter Digital Communications Corp., Japan Radio Co. Ltd., KDDI Corporation, KT Corporation, LG Electronics Inc., Mitsubishi Electric Corporation, Motorola Inc. ,NEC Corporation, Nokia Corporation, Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG, OKI Electric Industry Company Ltd., Panasonic Corporation, SK Telecom, Samsung Electronics Co., Sharp Corporation, Sprint Nextel Corporation, THALES Communications, Tata Communications Limited, Toshiba Corporation, WiMAX Forum (共同寄書)		1
China Mobile Communications Corporation, DaTang Telecom. Technology & Industry Hold'g Co Ltd, Huawei Technologies Co. Ltd (共同寄書)		2
AT&T Inc., Alcatel-Lucent France, Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc., DaTang Telecom. Technology&Industry Hold'g Co Ltd, Fujitsu Limited, Huawei Technologies Co. Ltd, NTT DoCoMo Inc.. Nippon Telegraph and Telephone Corporation (NTT), Nokia Corporation, Nokia Siemens Networks GmbH & Co KG, OKI Electric Industry Company Ltd. (OKI), Samsung Electronics Co., Ltd., Telecom Italia S.p.A., Telefon AB-LM Ericsson		1
Alcatel-Lucent France, Alcatel-Lucent USA Inc., France Télécom Orange, Motorola Inc. Nokia Corporation, Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG, Société Francaise du Radiotéléphone (SFR) Telefon AB-LM Ericsson, Telefónica O2 (Germany) GmbH & Co. OHG		1
小計	78	57
合計	219	86

付属資料2 ITU-R WP5D第6回会合日本代表団名簿

区分	氏名	会社名・団体名	所属・役職
団長	坂中 靖志	総務省 総合通信基盤局	電波部 移動通信課 新世代移動通信システム推進室長
副団長	佐藤 孝平	(社)電波産業会	常務理事
構成員	北 豊	イー・モバイル(株)	技術本部 設備基盤部 無線企画 G
構成員	山口 博久	インテル(株)	研究開発本部 主幹研究員
構成員	橋本 明	(株)NTTドコモ	無線標準化推進室 室長
構成員	新 博行	(株)NTTドコモ	電波部 電波企画担当 課長
構成員	田中 晋也	(株)NTTドコモ	研究開発推進部 国際標準化担当
構成員	菅田 明則	KDDI(株)	技術渉外室 電波部 担当部長
構成員	野本 真一	(株)KDDI 研究所	執行役員(モバイル・ワイヤレス部門担当)
構成員	小西 聡	(株)KDDI 研究所	無線通信方式グループ グループリーダー
構成員	畑川 養幸	(株)KDDI 研究所	無線通信方式グループ 研究員
構成員	小松 裕	ソフトバンク モバイル(株)	モバイルネットワーク本部 ネットワーク統括部 電波部 課長
構成員	小林 誠	(株)東芝	東芝 モバイルコミュニケーション社 モバイル機器設計統括第二部 ソフトウェア設計第二部 参事
構成員	本多 美雄	日本エリクソン(株)	技術本部 標準化・レギュレーション担当部長
構成員	鬼頭 英二	日本電気(株)	キャリアネットワーク企画本部 エグゼクティブエキスパート
構成員	石川 禎典	(株)日立製作所	通信ネットワーク事業部 主任技師
構成員	林 律雄	富士通(株)	事業管理統括部 標準化推進部
構成員	吉井 勇	パナソニック(株)	東京R&Dセンター 次世代モバイル開発センター 主任技師
構成員	佐藤 一美	三菱電機(株)	通信システム事業本部通信システムエンジニアリングセンター 戦略事業推進グループ 担当部長
構成員	広池 彰	(社) 電波産業会	研究開発本部 移動通信グループ 担当部長
構成員	白石 基	(社) 電波産業会	研究開発本部 移動通信グループ 主任研究員
構成員	木幡 祐一	(社) 電波産業会	研究開発本部 移動通信グループ 主任研究員

付属資料3 日本寄書等の審議結果

項 目	日本寄書等	内 容	結 果
WG-TECH	Doc. 5D/544	<p>本寄与文書は、ITU-R より発出された IMT-Advanced の無線インタフェース提案募集に対し、日本より IEEE802.16 (IEEE 802.16m 技術)に基づく候補提案を提出したものである。</p>	<p>候補提案は寄書 5D/544 として WG-TECH において提案に必要なすべての要素を含んでいること、ならびに Step4 への移行の確認が行われた。</p> <p>まず、SWG-COORDINATION において提案に求められている情報の要素確認が行われた。さらに SWG-EVAL にて、候補提案の内容に関して IEEE より提案されている候補提案の内容と技術的に同一であり、以降の評価作業は日本提案 5D/544 と IEEE 提案 5D/542 とを同一とみなして作業を進めることが確認された。</p> <p>これらの作業結果を元に SWG-COORDINATION にて提案受理確認 (Acknowledgment) の ADV ドキュメント化作業が行われた。</p> <p>結果、日本提案 5D/544 は IMT-ADV/5 (TEMP/257)として Plenary で候補提案として正式受理され、提案元である日本対して提案受理の通知が Liaison (TEMP/263r2) として、外部評価グループに Liaison (TEMP/268r1)として発出されることとなった。</p>
WG-TECH	Doc. 5D/545	<p>本寄与文書は、IMT-Advanced 無線インタフェースとして LTE-Advanced を提案したものである。</p> <p>Technology Description Template, Link Budget Template, Compliance Template、Self-evaluation Report 及び IPR 関連の情報を含み、必要事項を全て包含した提案寄書となっている。</p> <p>尚、技術的な内容は 3GPP から提案された寄書(5D/564)と同一である。</p>	<p>SWG-Coordination、及び SWG-Eval において討議され、“Complete Submission”として受領された。</p> <p>本提案受領の Acknowledgement として IMT-ADV/6 が作成され、ITU Web 上で公開される。又、提案元の日本には受領確認の Liaison が発出される。</p> <p>尚、外部評価団体に対しては、3GPP からの提案を評価した結果は本提案にも適用可能であることが連絡された。</p> <p>又、会合間に行われる Correspondence Group の 3GPP 系提案の Topic に対して提案者としての参加が要請された。</p>

項 目	日本寄書等	内 容	結 果
WG-TECH	Doc. 5D/546	<p>本寄与文書は、WP5DにおけるIMTに特化したコグニティブ無線システム（CRS）に関する課題の検討の進め方と、日本が考えるIMTにCRSを適用した場合の課題について述べたものである。検討の進め方については、WP5Aで作成中のレポートの進捗に影響を与えないように、WP5Dでの検討内容やWP5Aで作成中のレポートの内容に関する意見をリエゾン等で送付しないことを提案している。また、IMTにCRSを適用した場合の課題については、Heterogeneous access typeの場合IMTに特化した課題はないとし、Opportunistic spectrum access typeの場合は共用検討のパターン数が膨大になることを指摘している。</p>	<p>WP5AにWP5Aで作成中のレポートのワークプランを問い合わせるリエゾンが発出されたが、その内容にはWP5Dでの議論の内容は一切含まれておらず、日本の主張が反映されたものとなった。</p> <p>IMTに特化したCRSの課題については、今回は具体的な内容の議論は行われなかった。</p>
WG-SPEC	Doc. 5D/547	<p>本寄与文書は、第5回WP5D会合において更新されたM.1036-3 勧告改定の作業文書において、Editor's Noteによる指摘や、[]付として、さらなる検討が求められている箇所を中心に、具体的な修正提案を行い、勧告改定の作業を促進するために入力を行った。</p>	<p>本寄与文書で提案した内容は、勧告M.1036-3改定に向けた作業文書において、提案した各種の修正が概ね反映され、特に3.4-3.6GHz帯の周波数アレンジメントの記述の簡略化の提案は全面的に反映された。</p>

項 目	日本寄書等	内 容	結 果
WG-TECH	Doc. 5D/548	<p>本寄与文書は、IMT-Advanced 開発プロセスを促進することを目的として、プロセスのステップ3（提案の受領、および受領確認）の完了、およびステップ5（外部評価グループ活動のレビューと調整）を進める以下の作業を行うことを提案するものである。</p> <p>ステップ3の完了作業</p> <ul style="list-style-type: none"> - 技術提案があった場合、提案に必要な内容が含まれているか(すなわち完全な提案であるか) 確認を行い、提案者に対して受領確認する。 - 完全な提案の場合は、外部評価グループへ提案があったことを連絡する。 - 技術提案が考慮しているテスト環境数について確認を行う(テスト環境数は、Indoor, Microcellular, Base coverage urban および High speed の4つの環境がある)。 - 当該提案に対してステップ3の完了、およびステップ4開始の宣言を行う。 <p>ステップ3に関連する作業</p> <ul style="list-style-type: none"> - 技術提案を WG Technology Aspects の関連する SWG に入力して、作業を開始する。 - ITU IPR ポリシーへの適合宣言について取り扱いを議論する。 <p>ステップ5の作業</p> <ul style="list-style-type: none"> - ステップ5の活動を効率よく進めるための、電子的な方法 (ITU のメーリングリスト、Sharepoint Site の"Discussion"機能、または Web ベース Forum 機能) を採用する。 - 採用した電子的な方法をもとに、ステップ5活動の枠組みを構築する。 <p>なお本寄与文書は、日中韓の共同寄与文書である。</p>	<p>本寄与文書により IMT-Advanced 開発プロセスの促進、およびコーディネーション活動に大いに貢献した。今会合に入力された IMT-Advanced の6つの技術提案の受領が行われ、これを提案者、および評価グループに知らせるリエゾンが作成された。また今後の評価活動を促進するために、提案者、評価グループ、およびITUメンバーが参加するコレスポネンシス・グループが設立され、電子的な方法 (ITU-R SG5 Correspondence Group Portal) にて議論をおこなうことを合意した。</p>
WG-SPEC	Doc. 5D/559	<p>本寄与文書は、ITU-R レポート M.2039 の改訂に向けた方向性を提案している。具体的には、WP5D 第5回会合で作成した JTG5-6 向けのリエゾン文書では、System specific parameter set と Generic parameter set があるが、同レポートの内容が System specific parameter でまとめられていることから、System specific parameter set のみを同レポートの改訂文書に盛り込むべきというものである。</p>	<p>本寄与文書の提案が支持され、現時点での作業文書では System specific parameter set のみが記載されている。なお、作業文書は次回会合に Carry forward される。</p>
WG-TECH	Doc. 5D/561 (ARIB 寄書)	<p>本寄与文書は、IEEE より提出された、IEEE802.16m に基づく IMT-Advanced の無線インタフェース候補提案(5D/542)をエンドースするものである。</p>	<p>SWG Coordination において紹介された。</p>

項 目	日本寄書等	内 容	結 果
WG-TECH	Doc. 5D/565 (ARIB 寄書)	本寄与文書は、3GPP member companies より提出された LTE-Advanced に基づく IMT-Advanced の無線インタフェース候補提案(5D/564)をエンドースするものである。3GPP PCG における合意に基づき 3GPP の各 OP が連携して提案のサポートを表明するものであり、他 SDO(ATIS, CCSA, ETSI, TTA, TTC)からも同様の寄与文書が提出された。	SWG Coordination において紹介された。
WG-TECH	Doc. 5D/577	本寄与文書は、日中韓の 3 国共同で IMT.RADIO に関して、Scope を IMT-Advanced 無線インタフェース選定過程の記録、Document Type を IMT-ADV とすることを提案し、その構成も含めて提案したものである。	SWG-Radio Aspects において討議され、Scope の一部表現を除いて提案通り合意された。 本作業の Micro Workplan を作成するとともに、提案した構成を基に作業文書を TEMP/251 に作成し、次回会合に Carry Forward した。

付屬資料 4 入力文書一覽 (1/7)

Doc.	TITLE	Source
5D/413 (Att.5.4)	Report of the fourth meeting of Working Party 5D (Geneva, 10-17 February 2009)	carried forward
5D/422 (Rev.1)	Information on Sections 5.2 and 5.6 as requested in Document 5D/413, Chapter 1, Section 3.1	carried forward
5D/426	Liaison statement on leading role of SG 2 on service definition	carried forward
5D/427	Liaison statement - Draft ITU-T Recommendation on requirements for land mobile alerting broadcast capabilities for civic purposes	carried forward
5D/428	Initial submission of material for updated of section 5.4 of Recommendation ITU-R M.1457 to Revision 10	carried forward
5D/434	Liaison statement on draft baseline text of G.hntreq "Requirements of transport functions in IP home network"	carried forward
5D/436	Response to the comments in Document 5D/422 (Rev.1) regarding revision 9 of Recommendation ITU-R M.1457	carried forward
5D/439	Regarding the updates of Recommendation ITU-R M.1457	carried forward
5D/440	Contribution to ITU-R Working Party 5D regarding Document 5D/422(Rev.1)	carried forward
5D/448	Answers to Questions from Germany (Doc. 5D/422) on information on Sections 5.2 and 5.6 as requested in Document 5D/413, Chapter 1, Section 3.1	carried forward
5D/449	On sharing of CDMA-DS and FDD component of OFDMA TDD WMAN in adjacent channels in the band 790-862 MHz in the same geographical area	carried forward
5D/450	On the applicability of the results in Document 5/129 to sharing of CDMA DS and the FDD component of OFDMA TDD WMAN in adjacent channels in the same geographical area	carried forward
5D/452	Revisions of Recommendations ITU-R M.1580-3 and ITU-R M.1581-3	carried forward
5D/471	Cognitive radio for IMT technical characteristics and functionalities of cognitive radio systems	carried forward
5D/484	ITU-R Working Party 5D study aspects on cognitive radio (CR) for IMT systems	carried forward
5D/488	On the study of IMT specific cognitive radio systems (CRS) aspects	carried forward
5D/526	Report of the fifth meeting of Working Party 5D (Geneva, 10-17 June 2009)	Chairman, WP 5D
5D/527	Liaison statement to Working Parties 1A, 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 5D, 6A, 7C, 7D and Joint Task Group 5-6 - Development of a Handbook on propagation information for the prediction of interference and coordination distance	WP 3M
5D/528	Liaison statement - Report of the 1st meeting of the Focus Group on Future Networks (FG-FN)	Chairman, ITU-T Focus Group on FN
5D/529	Update of subclause 5.6 in revision 10 of Recommendation ITU-R M.1457	IEEE
5D/530	Liaison statement to ITU-R Study Group 4, Working Parties 4C and 5D - Information on standards related to the satellite component of IMT (SRI-H)	ETSI
5D/531	Proposed modifications to the working document towards a revision of Recommendation ITU-R M.1036-3	France
5D/532	Liaison statement to Working Party 5D - Status of satellite component of IMT	WP 4C
5D/533	Interim Report on the Study Group 5 activity	Chairman, SG 5
5D/534	Liaison statement to Working Party 5D - Draft new Recommendation ITU-R S.[IMT-PFD]	WP 4A
5D/535	Liaison statement to Study Group 5 - Satellite component of IMT-2000	SG 4
5D/536	Application of IMT and IMS in mobile networks in developing countries	ITU-T SG 13
5D/537	Acknowledgment of information on the update of ITU Handbook Supplement on migration to IMT-2000	ITU-T SG 13

付屬資料 4 入力文書一覽 (2/7)

Doc.	TITLE	Source
5D/538	Progression of the working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3 - Frequency arrangements for implementation of the terrestrial component of International Mobile Telecommunications (IMT) in the bands identified for IMT in the Radio Regulations (RR)	United States of America
5D/539	Comments on the update process for IMT Advanced	United States of America
5D/540	Development of a preliminary draft new Report on isolation requirements of base station antennas of different IMT-2000 networks when co-located on the same cell site	Canada
5D/541	Progression of the working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3 - Frequency arrangements for implementation of the terrestrial component of International Mobile Telecommunications (IMT) in the bands identified for IMT in the Radio Regulations (RRs)	Canada
5D/542	Submission of a candidate IMT-Advanced RIT based on IEEE 802.16 (Parts 1 to 4)	IEEE
5D/543	Initial submission of updated material on IMT 2000 CDMA DS and IMT-2000 CDMA TDD toward Revision 10 of Recommendation ITU-R M.1457	AT&T Inc. Alcatel-Lucent France Alcatel-Lucent Shanghai Bell Alcatel-Lucent USA Inc. DaTang Telecom. Technology&Industry Hold'g Co Ltd Fujitsu Limited Huawei Technologies Co. Ltd NTT DoCoMo Inc. Nippon Telegraph and Telephone Corporation (NTT) Nokia Corporation Nokia Siemens Networks GmbH & Co KG OKI Electric Industry Company Ltd. (OKI) Samsung Electronics Co., Ltd, Telecom Italia S.p.A. Telefon AB-LM Ericsson
5D/544	Proposal for candidate radio interface technologies for IMT-Advanced based on IEEE 802.16	Japan
5D/545	Proposal for candidate radio interface technologies for IMT-Advanced based on LTE Advanced	Japan
5D/546	Views on the study of IMT-Specific cognitive radio systems (CRS) at Working Party 5D and consideration of IMT-Specific issues related to CRS	Japan
5D/547	Proposed modifications on the working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3	Japan
5D/548	Proposal of actions for IMT-Advanced development at the 6th Working Party 5D Meeting	China (People's Republic of) Japan Korea (Republic of)
5D/549	Proposals on further consideration of working document [towards a preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.700]] on frequency arrangements planning in the band 698-960 MHz	Russian Federation

付属資料4 入力文書一覧 (3/7)

Doc.	TITLE	Source
5D/550	Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3"	Germany (Federal Republic of)
5D/551	Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3"	Germany (Federal Republic of)
5D/552	Isolation between closely spaced antennas	Qualcomm, Inc.
5D/553	Change proposals to Annexes in Recommendation ITU-R M.1036 related TDD/FDD mixing	UMTS Forum
5D/554	Frequency arrangement for the band 2 300-2 400 MHz	UMTS Forum
5D/555	Response to liaison letter from Working Party 5D on IMT parameters for the band 790-862 MHz for use by Joint Task Group 5-6	WiMAX Forum
5D/556	Revisions of Recommendations ITU-R M.1580-3 and ITU-R M.1581-3	WiMAX Forum
5D/557	Revision to Recommendation ITU-R M.1036-3	WiMAX Forum
5D/558	Endorsement of candidate IMT-Advanced RIT based on IEEE 802.16	Alcatel-Lucent France Alvarion Ltd. British Telecommunications Public Ltd. Co.(BT Plc) Cisco Systems Inc. Clearwire Inc. Electronics and Telecom. Research Inst. (ETRI) Fujitsu Limited Hitachi Ltd. Industrial Technology Research Inst. Inc. (ITRI) Intel Corporation Inter Digital Communications Corp. Japan Radio Co. Ltd. KDDI Corporation KT Corporation LG Electronics Inc. Mitsubishi Electric Corporation Motorola Inc. NEC Corporation Nokia Corporation Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG OKI Electric Industry Company Ltd. Panasonic Corporation SK Telecom Samsung Electronics Co. Sharp Corporation Sprint Nextel Corporation THALES Communications Tata Communications Limited Toshiba Corporation WiMAX Forum
5D/559	A proposal of the way forward for revision of Report ITU-R M.2039	Japan

付属資料4 入力文書一覧 (4/7)

Doc.	TITLE	Source
5D/560	Submission of a candidate IMT-Advanced RIT based on IEEE 802.16	Director, BR Submitted on behalf of the Telecommunications Technology Association (TTA).
5D/561	ARIB's endorsement of IEEE's proposal submission under Step 3 of the IMT-Advanced process in Document IMT-ADV/2(Rev.1)	Director, BR Submitted on behalf of Association of Radio Industries and Businesses (ARIB).
5D/562	View on working document toward a preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.700]	Korea (Republic of)
5D/563	Support of candidate RITs for IMT-Advanced	Korea (Republic of)

付属資料4 入力文書一覧 (5/7)

Doc.	TITLE	Source
5D/564	Complete submission of 3GPP LTE Release 10 & beyond (LTE-Advanced) under Step 3 of the IMT-Advanced process	AT&T Inc. Alcatel-Lucent France Alcatel-Lucent Shanghai Bell Alcatel-Lucent USA Inc. British Telecommunications Public Ltd. Co China Mobile Communications Corporation China Telecommunications Corporation China Unicom (Hong Kong) Limited DaTang Telecom. Technology & Industry Hod'g Co Ltd Electronics and Telecom. Research Inst. (ETRI) Fujitsu Limited Hitachi Ltd. Huawei Technologies Co. Ltd Japan TeleCom Radio Co. Ltd. KDDI Corporation KT Corporation LG Electronics Inc. LG TeleCom Ltd. Mitsubishi Electric Corporation Motorola Inc. NEC Corporation NTT DoCoMo Inc. Nippon Telegraph and Telephone Corporation (NTT) Nokia Corporationn Nokia Siemens Networks GmbH & Co.KGOKI Electirc Industry Company Ltd. (OKI) Panasonic Corporation Qualcomm, Inc. SK Telecom SOFTBANK MOBILE Corp. Samsung Electronics Co., Ltd Sharp CorporationTelecom Italia S.p.A. Telefon AB-LM Ericsson Toshiba Corporation ZTE Corporation Mobile Ltd
5D/565	3GPP submission of LTE-Advanced as a candidate technology for IMT-Advanced	Director, BR Submitted on behalf of Association of Radio Industries and Businesses (ARIB)

付屬資料 4 入力文書一覽 (6/7)

Doc.	TITLE	Source
5D/566	3GPP submission of LTE-Advanced as a candidate technology for IMT-Advanced	Director, BR Submitted on behalf of the Telecommunications Technology Association (TTA).
5D/567	Information related to the 3GPP candidate technology submission of LTE release 10 & beyond (LTE-Advanced)	Alliance for Telecommunications Industry Solutions
5D/568	A complete technology submission of 3GPP LTE release 10 & beyond (LTE-Advanced) under Step 3 of the IMT-Advanced process	Alliance for Telecommunications Industry Solutions
5D/569	3GPP submission of LTE-Advanced as a candidate technology for IMT-Advanced	Director, BR Submitted on behalf of the Telecommunication Technology Committee (TTC).
5D/570	Information document on the WINNER+ calibration status of simulations for external evaluation purposes for IMT-Advanced	Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG Telefon AB-LM Ericsson
5D/571	Proposed frequency arrangement for UHF band 698-806 MHz	India (Republic of)
5D/572	Studies toward a harmonised 700 MHz band plan for Region 3	Telstra Corporation Ltd.
5D/573	Views on Recommendation ITU-R M.1036	Colombia (Republic of)
5D/574	Consideration of scenario dedicated to the CRS specific for IMT systems - Cognitive radio systems specific for IMT systems	France
5D/575	Working document towards a preliminary draft new Report on the CRS specific for IMT systems - Cognitive radio systems specific for IMT systems	France
5D/576	Consideration on channel estimation error model for IMT-Advanced evaluation	China Mobile Communicationns Corporation DaTang Telecom. Technology & Industry Hold'g Co Ltd Huawei Technologies Co. Ltd
5D/577	Proposals on scope, structure and contents of IMT.RADIO	China (People's Republic of) Japan Korea (Republic of)
5D/578	ITU-R Working Party 5D study aspects on cognitive radio (CR) for IMT systems	Huawei Technologies Co. Ltd. ZTE Corporation
5D/579	Consideration on relay channel model	China Mobile Communications Corporation Da Tang Telecom. Technology & Industry Hold'g Co Ltd Huawei Technologies Co. Ltd
5D/580	Submission of TD-LTE-Advanced for IMT Advanced candidate technology	China (People's Republic of)
5D/581	3GPP submission of LTE-Advanced as a candidate technology for IMT-Advanced	Director, BR Submitted on behalf of China Communications Standards Association (CCSA).

付屬資料 4 入力文書一覽 (7/7)

Doc.	TITLE	Source
5D/582	Comments regarding the draft new Recommendation ITU-R S.[IMT-PFD]	Sweden
5D/583	UHF parameters	France
5D/584	Proposal for 2 300-2 400 MHz band	China (People's Republic of)
5D/585	Proposal on the IMT frequency arrangements in the 698-806 MHz band	China (People's Republic of)
5D/586	Plan for IMT-Advanced work inside and outside of ITU-R during the period October 2009 to October 2010	Chairman and Vice-Chairman WP 5D
5D/587	Working Party 5D method of work for IMT Advanced in October 2009 Meeting	Chairman and Vice-Chairman WP 5D
5D/588	3GPP submission of LTE-Advance as a candidate technology for IMT-Advanced	ETSI
5D/589	Industry comments in relation to the draft new Recommendation ITU-R S.[IMT-PFD]	Alcatel-Lucent France Alcatel-Lucent USA Inc. France Télécom Orange Motorola Inc. Nokia Corporation Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG Société Francaise du Radiotéléphone (SFR) Telefon AB-LM Ericsson Telefónica O2 (Germany) GmbH & Co. OHG
5D/590	Status of the proposed update of Recommendation ITU-R M.1457 to Revision 9	Director, Radiocommunication Bureau
5D/591	Liaison statement to Working Parties 1B, 3K, 4A, 5A, 5D, 6A and 7C - WRC-12 Agenda item 1.22	Alcatel-Lucent France Alcatel-Lucent USA Inc. France Télécom Orange Motorola Inc. Nokia Corporation Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG Société Francaise du Radiotéléphone (SFR) Telefon AB-LM Ericsson Telefónica O2 (Germany) GmbH & Co. OHG
5D/592	Liaison statement to ITU-R Study Group 3 and Working Parties 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 5D, 6A, 7B, 7C, 7D on the progress of WRC-12 Agenda item 1.19	Director, Radiocommunication Bureau
5D/593	Update on recent activities within CEPT	ITU Region 1 (CEPT) Rapporteur
5D/594	Activities related to IMT-2000 IMT-Advanced in Region 3	Region 3 Rapporteur
5D/595	Convenor, 3rd Workshop on IMT-Advanced - Meeting report	WP 5D

付属資料5 出力文書一覧

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
241	MEETING CONCLUSION	SWG Evaluation	1、ル、c
242	PROPOSED UPDATE OF SECTION 1.3.2.1 OF ANNEX 1 OF REPORT ITU-R M.2135-1	WG Technology Aspects	2、ロ、b
243 Rev.1	SUMMARY AND BACKGROUND INFORMATION ON DRAFT REVISION 1 OF REPORT ITU-R M.2135	WG Technology Aspects	2、ロ、b
244	[DRAFT] LIAISON STATEMENT TO ITU-T STUDY GROUP 2	WG General Aspects	2、ホ、a
245	MEETING REPORT	Acting Chairman, WG General Aspects	1、ル、a
246	DETAILED WORKPLAN FOR “UPDATE OF RECOMMENDATIONS ITU-R M.1580-3 AND ITU-R M.1581-3”	AH – Workplan	1、ヌ、e
247	MEETING REPORT OF SWG M.1580/81	SWG M.1580/81	1、ル、c
248	MEETING REPORT	Chairman, Technology SWG M.1457	1、ル、c
249 Rev.1	MEETING REPORT ATTACHMENT 2 WORK PLAN FOR DELIVERABLE IMT.RADIO	AH – Workplan	1、ヌ、e
250	DRAFT LIAISON STATEMENT TO ITU-R WORKING PARTY 5A (COPY TO WORKING PARTIES 5B AND 5C FOR INFORMATION) ON THE STUDY OF COGNITIVE RADIO SYSTEMS	WG Technology Aspects	1、ホ、a
251	DRAFT WORKING DOCUMENT ON [IMT.RADIO] FRAMEWORK AND CHARACTERISTICS OF THE RADIO INTERFACES OF IMT-ADVANCED	WG Technology Aspects	1、ヲ、e
252 Rev.1	MEETING REPORT	Chairman, WG Developing Aspects	1、ル、a
253 Rev.1	LIAISON STATEMENT TO ITU-T SG 13 (COPY TO THE CHAIRMAN OF ITU-D SG 2 AND ITU-R SG 5)	WG Developing Aspects	2、ホ、a
254	WORKING DOCUMENT TOWARDS A DRAFT REVISION OF REPORT ITU-R M.2039-1 CHARACTERISTICS OF TERRESTRIAL IMT-2000 SYSTEMS FOR FREQUENCY SHARING/INTERFERENCE ANALYSES	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e
255	DRAFT NOTE FROM THE CHAIRMAN OF WORKING PARTY 5D TO THE CHAIRMAN OF STUDY GROUP 4 (COPY TO THE CHAIRMAN OF WORKING PARTY 4A AND THE CHAIRMAN OF STUDY GROUP 5) COMMENTS ON DRAFT NEW RECOMMENDATION ITU-R S.[IMT-PFD]	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
256	ACKNOWLEDGEMENT OF CANDIDATE SUBMISSION FROM IEEE UNDER STEP 3 OF THE IMT-ADVANCED PROCESS (IEEE TECHNOLOGY)	WG Technology Aspects	1、リ、a
257	ACKNOWLEDGEMENT OF CANDIDATE SUBMISSION FROM JAPAN UNDER STEP 3 OF THE IMT-ADVANCED PROCESS (IEEE TECHNOLOGY)	WG Technology Aspects	1、リ、a
258	ACKNOWLEDGEMENT OF CANDIDATE SUBMISSION FROM JAPAN UNDER STEP 3 OF THE IMT-ADVANCED PROCESS (3GPP TECHNOLOGY)	WG Technology Aspects	1、リ、a
259 Rev.2	ACKNOWLEDGEMENT OF CANDIDATE SUBMISSION FROM TTA1 UNDER STEP 3 OF THE IMT-ADVANCED PROCESS (IEEE TECHNOLOGY)	WG Technology Aspects	1、リ、a
260 Rev.1	ACKNOWLEDGEMENT OF CANDIDATE SUBMISSION FROM 3GPP PROPONENT (3GPP ORGANIZATION PARTNERS OF ARIB, ATIS, CCSA, ETSI, TTA AND TTC) UNDER STEP 3 OF THE IMT-ADVANCED PROCESS (3GPP TECHNOLOGY)	WG Technology Aspects	1、リ、a
261 Rev.2	ACKNOWLEDGEMENT OF CANDIDATE SUBMISSION FROM CHINA (PEOPLE’S REPUBLIC OF) UNDER STEP 3 OF THE	WG Technology Aspects	1、リ、a

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
	IMT-ADVANCED PROCESS (3GPP TECHNOLOGY)		
262 Rev.2	DRAFT LIAISON STATEMENT TO IEEE ON CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSION (DOCUMENT 5D/542)	WG Technology Aspects	2、ホ、a
263 Rev.2	DRAFT LIAISON STATEMENT TO JAPAN ON CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSION (DOCUMENT 5D/544)	WG Technology Aspects	2、ホ、a
264 Rev.2	DRAFT LIAISON STATEMENT TO JAPAN ON CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSION (DOCUMENT 5D/545)	WG Technology Aspects	2、ホ、a
265 Rev.2	DRAFT LIAISON STATEMENT TO TTA ON CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSION (DOCUMENT 5D/560)	WG Technology Aspects	2、ホ、a
266 Rev.2	DRAFT LIAISON STATEMENT TO 3GPP PROPONENT (3GPP ORGANIZATION PARTNERS OF ARIB, ATIS, CCSA, ETSI, TTA AND TTC) ON CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSION (DOCUMENT 5D/564)	WG Technology Aspects	2、ホ、a
267 Rev.2	DRAFT LIAISON STATEMENT TO CHINA (PEOPLE'S REPUBLIC OF) ON CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSION (DOCUMENT 5D/580)	WG Technology Aspects	2、ホ、a
268 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO INDEPENDENT EVALUATION GROUPS ON EXPECTATIONS AND TIMEFRAMES ON THE EVALUATION OF CANDIDATE IMT-ADVANCED TECHNOLOGIES	WG Technology Aspects	2、ホ、a
269 Rev.1	DRAFT CIRCULAR LETTER ADDENDUM #3	WG Technology Aspects	1、チ、a
270 Rev.2	TERMS OF REFERENCE FOR CORRESPONDENCE GROUPS FOR IMT-ADVANCED EVALUATION	WG Technology Aspects	2、リ、a
271	WORKING DOCUMENT [TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ITU-R M.[IMT.700]] ASPECTS OF THE IMT FREQUENCY ARRANGEMENTS IN THE 698-960 MHZ BAND(QUESTION ITU-R 229-2/5)	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e
272 Rev.1	MEETING REPORT	Chairman, SWG Evaluation	1、ル、c
273	DETAILED WORK PLAN FOR REVISION(S) OF RECOMMENDATION ITU-R M.1036-3	AH – Workplan	1、ヌ、e
274	WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT REVISION OF RECOMMENDATION ITU-R M.1036-3 FREQUENCY ARRANGEMENTS FOR IMPLEMENTATION OF THE TERRESTRIAL COMPONENT OF INTERNATIONAL MOBILE TELECOMMUNICATIONS (IMT) IN THE BANDS IDENTIFIED FOR IMT IN THE RADIO REGULATIONS (RR)	WG Spectrum Aspects	1、イ、e
275	MEETING REPORT	Chairman, SWG Frequency Arrangements	1、ホ、c
276	CHAPTER 2 ITU-R WORKING PARTY 5D STRUCTURE AND WORK PLAN	AH Workplan	1、ヌ、e
277	MEETING REPORT	Chairman, SWG Sharing Studies	1、ル、c
278 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO JTG 5-6 COPIED TO WORKING PARTY 5B FOR INFORMATION IMT PARAMETERS FOR THE BAND 790-862 MHZ	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
279	WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ON ISOLATION FOR ANTENNAS OF BASE STATIONS IN THE LAND MOBILE SERVICE INCLUDING IMT	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e
280	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 1A (COPY FOR INFORMATION TO WORKING PARTY 5A) ON WRC-12 AGENDA ITEM 1.22	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
281	DETAILED WORK PLANS FOR SWG SHARING STUDIES AND MODIFICATIONS TO THE OVERALL WORK PLAN OF WP 5D	AH Workplan	1、ヌ、e
282	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 3M (COPY FOR INFORMATION TO WORKING PARTY 4A) DEVELOPMENT OF A HANDBOOK ON PROPAGATION INFORMATION FOR THE PREDICTION OF INTERFERENCE AND COORDINATION DISTANCE	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
283 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANISATIONS IMT PARAMETERS FOR THE BAND 790-862 MHZ FOR USE BY JTG 5-6	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
284	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 5A WORK ON A PDN REPORT ON ISOLATION FOR ANTENNAS OF BASE STATIONS IN THE LAND MOBILE SERVICE INCLUDING IMT	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
285 Rev.1	MEETING REPORT	Chairman, Ad Hoc Workplan	1、ル、a
286	MEETING REPORT	SWG Coordination	1、ル、c
287	MEETING REPORT	Chairman, WG Spectrum Aspects	1、ル、a

* 分類

1	修正無し
2	修正有り

イ	勧告案
ロ	レポート案
ハ	決議 (Resolution) 案
ニ	Question 案
ホ	Liaison statement
へ	Hand book text
ト	CPM Report text
チ	Circular letter text
リ	Text for web page or ADV document
ヌ	Work plan
ル	Meeting report
ヲ	その他 (未定)

a	WP5D として承認
b	WP5D として合意 (SG 会合提出)
c	WP5D PL 審議対象外
d	WP5D として否決 (削除)
e	WP5D として継続 (キャリアオーバー)

付属資料6 各WGの当面のスケジュール(1/2)

WG 区分	2008												2009												2010																																																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																
全体	☆ WP5D SG5 1st Geneva			☆ WP5D 2nd U.A.E			☆ WP5D 3rd Korea			☆ WP5D 4th Geneva			☆ WP5D 5th Geneva			☆ WP5D 6th Germany			☆ WP5D 7th Italv.			☆ WP5D 8th			☆ WP5D 9th			☆ SG5																																																								
AH Circular Letter	○ サークュラーレター 一部完成			○ サークュラーレター 完成																																																																																
WG TECH	☆ M.1457-7 RSPC改訂勧告案5.X.2章情報, CertificationをITUへ提出 2008.1.31 ○ ◎ RSPC改訂勧告案M.1457-8承認 (5.X.1章等) RSPC改訂勧告案 M.1457-8承認 (5.X.1章等) ● IMT.TECH 作業文書作成 ● IMT.EVAL 作業文書作成 ● M.1580/M.1581改訂勧告草案検討												● RSPC改訂勧告草案 M.1457-9検討 ● RSPC改訂勧告草案 M.1457-9検討 ☆ M.1457-8 RSPC改訂勧告案5.X.2章情報, CertificationをITUへ提出 2008.10.31 ○ Technology Description Template承認 ○ IMT.EVAL承認 ○ M.1580/M.1581改訂勧告草案検討												○ RSPC改訂勧告草案 M.1457-9承認 (5.X.1章等) ☆ M.1457-9 RSPC改訂勧告草案5.X.2章情報, CertificationをITUへ提出 2009.8.3 ◎ RSPC改訂勧告案M.1457-9採択 ● RSPC改訂勧告草案 M.1457-10検討 ● RSPC改訂勧告草案 M.1457-10検討 ● M.1580/M.1581改訂勧告草案検討 ◎ M.1580-3, M.1581-3採択 ● IMTRADIO検討 ● M.1580/M.1581改訂勧告草案検討												◎ RSPC改訂勧告案M.1457-9採択 ● RSPC改訂勧告草案 M.1457-10承認 ● RSPC改訂勧告草案 M.1457-10検討 ● RSPC改訂勧告草案 M.1457-10承認 ● M.1580/M.1581改訂勧告草案検討 ● M.1580/M.1581改訂勧告草案検討 ● M.1580/M.1581改訂勧告草案検討 ☆ M.1457-10 RSPC改訂勧告草案5.X.2章情報, CertificationをITUへ提出 ○ IMTRADIO承認 ○ IMTRADIO IMTPADVとして承認 ○ M.1580/M.1581改訂勧告草案 M.1580-4, M.1581-4承認																																															
WG-SPEC	▲ M.2113改訂検討 ● MBWA共用 作業文書作成 ▲ IMT.Sharing 2300検討 ▲ M1036-3改訂検討												● M.2113改訂検討 ● M.2039改訂検討 ● MBWA2.5GHz 作業文書 ▲ IMT.SHARING 2300検討 ● M1036-3改訂作業文書作成												○ ◎ M.2113改訂案承認 ● M.2039改訂検討 ● MBWA2.5GHz 作業文書 ▲ IMT.SHARING 2300検討 ● M1036-3改訂作業文書作成												△ M.2039改定 作業計画作成 △ ANT ISO 作業計画作成 ▲ IMT.SHARING 2300検討中止 ● M1036-3改訂作業文書作成												● M.2039改定 作業文書作成 ● ANT ISO 作業文書作成 ● ANT ISO 作業文書作成 ● ANT ISO 作業文書作成 ▲ IMT Mitigation 作業計画作成 ● M1036-3改定 作業文書作成												● M.2039改定 作業文書作成 ● ANT ISO 作業文書作成 ● ANT ISO 作業文書作成 ● ANT ISO 作業文書作成 ● EMT Mitigation 作業文書作成 ● M1036-3改定 作業文書作成												○ M.2039改定 草案承認 ○ ANT ISO 草案承認 ○ IMT Mitigation 新勧告草案承認 ○ M1036-3改定 作業文書作成											

注1) ●: 作業文書の作成 △ ▲: 準備等 ○: 勧告草案の承認 (WP5D) ◎: 勧告案の採択又は報告案の承認 (SG5) : 勧告として成立

